令和７年度
伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事

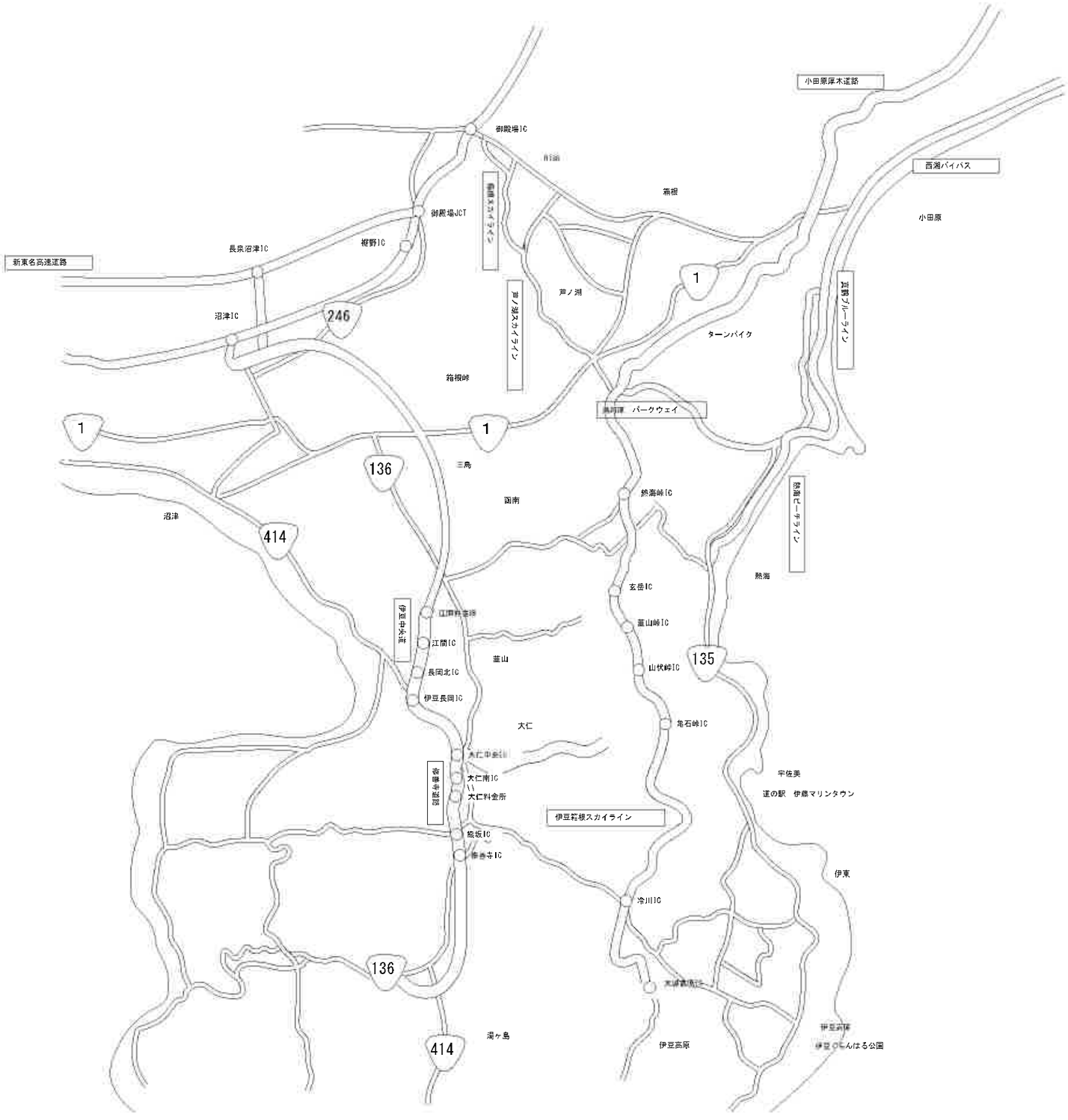
２０２５　年　７　月

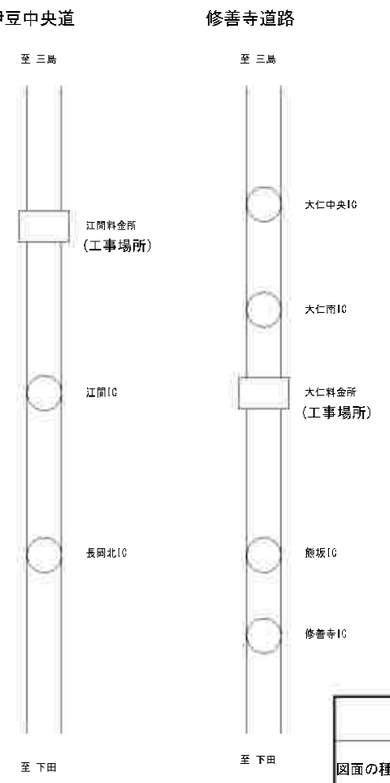
静岡県道路公社

A　建築意匠図		
図番	図面名称	縮尺
A－01	図面リスト	－
A－02	路線図	－
特記－01	建築工事特記仕様書(1)	－
特記－02	建築工事特記仕様書(2)	－
特記－03	建築工事特記仕様書(3)	－
特記－04	建築工事特記仕様書(4)	－
特記－05	建築工事特記仕様書(5)	－
特記－06	建築工事特記仕様書(6)	－
特記－07	建築工事特記仕様書(7)	－
特記－08	建築工事特記仕様書(8)	－
特記－09	建築工事特記仕様書(9)	－
A　建築意匠図		
図番	図面名称	
江間ＩＣ		
EA－01	配置図	1/300
EA－02	仕上表、求積図　面積表	1/100
EA－03	１階平面図（現況・撤去）	1/250
EA－04	１階平面図（改修後）	1/250
EA－05	２階平面図・屋根伏図	1/200
EA－06	立面図	1/200
EA－07	断面図	1/200
EA－08	断面詳細図　1	1/50
EA－09	断面詳細図　2	1/50
EA－10	断面詳細図　3	1/50
EA－11	断面詳細図　4	1/50
EA－12	断面詳細図　5	1/50
EA－13	断面詳細図　6	1/50
EA－14	キャットウォーク詳細図	1/50
EA－15	平面詳細図１（現況・撤去）	1/100
EA－16	平面詳細図２（現況・撤去）	1/100
EA－17	平面詳細図３（現況・撤去）	1/100
EA－18	平面詳細図４（現況・撤去）	1/100
EA－19	平面詳細図５（改修後）	1/100
EA－20	平面詳細図６（改修後）	1/100
EA－21	平面詳細図７（改修後）	1/100
EA－22	平面詳細図８（改修後）	1/100
EA－23	アイランド延伸詳細図	1/60, 40, 20
EA－24	雑詳細図　1	1/100
EA－25	雑詳細図　2	1/100, 50, 20, 10
EA－26	仮設計画図	1/300
EA－27	ステップ図１(参考図)	1/400
EA－28	ステップ図２(参考図)	1/400
EA－29	仮設架台図	1/400
EA－30	ETC機械室　平面図・屋根伏図・立面図	1/100
EA－31	ETC機械室　平面詳細図	1/40
EA－32	ETC機械室　矩計図	1/20
EA－33	ガントリー基礎一般図	NON
S　構造図		
ES－01	安全通路　構造設計標準仕様	NON
ES－02	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	NON
ES－03	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	NON
ES－04	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）	NON
ES－05	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（４）	NON
ES－06	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（５）	NON
ES－07	安全通路　鉄骨構造標準図（１）	NON
ES－08	安全通路　鉄骨構造標準図（２）	NON
ES－09	安全通路　ベースパック柱脚工法　設計・施工　標準図：1;	NON
ES－10	安全通路　ベースパック柱脚工法　設計・施工　標準図：2;	NON
ES－11	安全通路　ポーリング柱伏図	NON
ES－12	安全通路　梁伏図（１）　基礎伏図、Z2層	1/200
ES－13	安全通路　梁伏図（２）　Z3、ZR層	1/200
ES－14	安全通路　軸組図（１）	1/200
ES－15	安全通路　軸組図（２）	1/200
ES－16	安全通路　基礎関連リスト	1/60
ES－17	安全通路　鉄骨部材リスト	1/60
ES－18	安全通路　鉄骨詳細図（１）	1/40
ES－19	安全通路　鉄骨詳細図（２）	1/40
ES－20	安全通路　鉄骨詳細図（３）	1/40
ES－21	安全通路　鉄骨詳細図（４）	1/40
ES－22	安全通路　鉄骨詳細図（５）	1/40
ES－23	安全通路　鉄骨詳細図（６）	1/40
ES－24	安全通路　基礎詳細図	1/60
ES－25	安全通路　新ＥＴＣ室構造図	1/40
E　電気設備図		
EE－01	電気設備図（改修後）	1/200
EE－02	1,2階平面図（改修後）	1/200
EE－03	既設受配電設備結線図	1/200

A　建築意匠図		
図番	図面名称	縮尺
大仁ＩＣ		
OA－01	配置図	1/200
OA－02	仕上表、求積図、面積表	1/200
OA－03	１階平面図（現況・撤去）	1/250
OA－04	１階平面図（改修後）	1/250
OA－05	２階平面図・屋根伏図	1/200
OA－06	立面図	1/200
OA－07	断面図	1/200
OA－08	断面詳細図１	1/50
OA－09	断面詳細図２	1/50
OA－10	断面詳細図３	1/50
OA－11	断面詳細図４	1/50
OA－12	キャットウォーク詳細図	1/50
OA－13	平面詳細図１（現況・撤去）	1/100
OA－14	平面詳細図２（現況・撤去）	1/100
OA－15	平面詳細図３（改修後）	1/100
OA－16	平面詳細図４（改修後）	1/100
OA－17	アイランド延伸詳細図	1/60, 40, 20
OA－18	ＰＣ（ＮＰ－１）詳細図	1/40
OA－19	雑詳細図　1	1/100
OA－20	雑詳細図　2	1/100, 50, 20, 10
OA－21	Ｄランプ　外構図	1/50
OA－22	Ｄランプ階段詳細　撤去図	1/60
OA－23	仮設計画図	1/200
OA－24	ステップ図１(参考図)	1/400
OA－25	ステップ図２(参考図)	1/400
OA－26	仮設架台図	1/200 30
OA－27	渡り廊下　仕上表・求積図・面積表	1/100
OA－28	渡り廊下　平面図・屋根伏図	1/100
OA－29	渡り廊下　立面図	1/100
OA－30	渡り廊下　断面詳細図	1/50
OA－31	ETC機械室　平面図・屋根伏図・立面図	1/100
OA－32	ETC機械室　平面詳細図	1/40
OA－33	ETC機械室　矩計図	1/20
OA－34	ガントリー基礎一般図	NON
S　構造図		
OS－01	安全通路　構造設計標準仕様	NON
OS－02	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	NON
OS－03	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	NON
OS－04	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）	NON
OS－05	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（４）	NON
OS－06	安全通路　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（５）	NON
OS－07	安全通路　鉄骨構造標準図（１）	NON
OS－08	安全通路　鉄骨構造標準図（２）	NON
OS－09	安全通路　ベースパック柱脚工法　設計・施工　標準図	NON
OS－10	安全通路　渡り廊下　杭工法　特記仕様書	NON
OS－11	ポーリング柱伏図	NON
OS－12	安全通路　杭伏図、基礎伏図、Z2～Z4層伏図	1/200
OS－13	安全通路　梁伏図（２）　Z5, ZR層伏図	1/200
OS－14	安全通路　軸組図（１）	1/200
OS－15	安全通路　軸組図（２）	1/200
OS－16	安全通路　軸組図（３）	1/200
OS－17	安全通路　基礎関連リスト	1/60
OS－18	安全通路　鉄骨部材リスト	1/60
OS－19	安全通路　鉄骨詳細図（１）	1/40
OS－20	安全通路　鉄骨詳細図（２）	1/40
OS－21	安全通路　鉄骨詳細図（３）	1/40
OS－22	安全通路　鉄骨詳細図（４）	1/40
OS－23	渡り廊下　ベースパック柱脚工法　設計・施工　標準図	NON
OS－24	渡り廊下　ポーリング柱伏図	NON
OS－25	渡り廊下　杭伏図、基礎伏図、梁伏図、軸組図	1/200
OS－26	渡り廊下　基礎リスト・地中梁・スラブ・礎柱リスト	1/60
OS－27	渡り廊下　鉄骨部材リスト	1/60
OS－28	渡り廊下　鉄骨詳細図（１）	1/200
OS－29	渡り廊下　鉄骨詳細図（２）	1/200
OS－30	渡り廊下　ストリップ干渉参考図	1/60
OS－31	渡り廊下　ストリップ測点参考図	1/40
OS－32	新ＥＴＣ室　構造図	1/40
E　電気設備図		
OE－01	電気設備図①（改修後）	1/200
OE－02	電気設備図②（改修後）	1/200

令和７年度　伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	図面リスト		
縮尺	－	図面番号	A－01
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
事務所名	静岡県道路公社		





令和7年度伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	路線図		
縮　尺	――	図面番号	A－02
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
事務所名	静岡県道路公社		

建築工事特記仕様書

第1　工事概要

1　工事名称　　令和7年度　伊豆中央道・修善寺道路ETC整備に伴う料金所改修工事

2　工事場所　　伊豆の国市南江間、伊豆の国市大仁地内

3　敷地面積

4　都市計画　　①市街化区域内　　・市街化調整区域内　　・都市計画区域外
　　・線引　　・　　・市街化区域　　②（市街化調整区域　）　　・非線引

5　用途地域　　①指定

6　防火地域　　・防火地域　　・準防火地域　　②指定なし

7　その他の地域・地区　　①風致地区指定のための地区計画区分　　・・Ⅱ　　②Ⅲ）
　　②風致地区指定のための風致審査　　V_0　36　　m/s
　　③道路位置　　H12建設省告示1455号に基づく区域　　別表（※21　　・
　　・駐車規制に基づく指定区域　　（・1種　　・2種　　・3種　　・4種）

8　道路種別

建築物名称	構造・階数	工事種別	建築面積㎡	延べ面積㎡	備考
上開口　女子通路	S造1階	新築	113.34	220.34	
下開口　FTO機械室	コンテナ平屋	増築	28.43	28.43	
大仁口　女子通路	S造2階	新築	82.18	179.89	
大仁口　渡り廊下	S造1階	新築	13.24	13.24	
大仁口　FTO機械室	コンテナ平屋	新築	29.75	29.75	

9　工事内容

上開口　女子通路新築工事、ETC機械設置工事
大仁口　女子通路新築工事、渡り廊下新築工事、FTO機械設置工事、料金徴収・料金所ブース撤去工事

第2　仕様

○1　図面及び特記仕様に示す表示されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築　事務室仕様書（建築工事編）令和6年版（以下「標準仕様書」という。）」による。ただし、下記仕様書のうち、（）内を付いたものを適用する。
　①上水　事共通仕様書
　②建築工事標準仕様書（令和6年版）（以下「標準詳細書」という。）
　③建築構解体工事共通仕様書（建築工事）令和4年度版（以下「改修標準仕様書」という。）
　④公共建築改修工事標準仕様書（建築工事）令和4年度版（以下「改修標準仕様書」という。）

○2　電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合、それぞれの特記仕様書を適用する。
　なお、電気設備工事の特記仕様書は（　　）図、機械設備工事の特記仕様書は（　　）図による。

○3　現場図面に明記がない場合、又は相違する場合には、疑義として監督職員の指示によるほか、次の優先順位により判定する。
　(1)質疑応答書(2)ふっ(3)共通仕様書(4)現場説明書　(5)特記仕様書
　(6)図面の図面　(7)標準仕様書・改修標準仕様書

○4　本特記仕様書の表記
　(1)項目に、番号の前にマルの付いたものを適用する。
　(2)特記事項には、ビルの付いたものを適用する。
　　○不　の付かない場合は○の付いたものを適用する。
　　○下　の付いた場合は、○に適用とし、適用範囲は○で示す。
　(3)特記事項に記載の（　　）の表示方法、「機械仕様書」の中表記は、与該図又は与該表を示す。
　(4)16、「市域計画図」「公園用地」「公園用地」の仕様に関する基本方針の公共工事に関する特記仕様書を示す。
　(5)設計者は施設計画で「地区に関連する事項（地区）」が記載されている場合には、工事下請の担当をとるものとし、これに伴う必要な調査・発注・防下等の供金処理を講じなければならない。
　　上記事項が無ければ場合に、前同様等の工事請負契約編第第第条（協議の補言）の規定による
　(6)指定仕様書で「指定」とした項目は、原則として具体的な材料・工法・施工方法等を明示している場合において、やむを得ない事情等（条件等）の変更等により明確する場合には、監督職員等の確認（1.1.13）の見直しを実施する。

第3　電子納品等

○1　納品の仕様等は「土木関係電子納品等運用要領」に準拠する。
○2　貸与する図面データの仕様　　・　　②　有り　　・　無し
○3　貸与する図面データの使用範囲
　当該工事の施工に必要な施工及び完成図の作成範囲で使用できる。

1章　各章共通事項

○1　工事実績情報システム（CORINS）への登録　　(1.1.1)
　受注時に請負契約金額が1千万円以上の工事について、工事実績情報システム（CORINS）に登録すること。また、契約変更により工事請負代金額が500万円未満になった場合は、すみやかに登録変更画面の工事実績を削除すること。なお、契約金額の変更登録は、完成時のみとする。

○2　工事の一時中止　　(1.1.3)
　利用に建設工事請負契約約款第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合等、工事を中止における工事現場の管理に関する適切な措置（以下「基本措置」という。）を発注者に提出し、承認を受けるものとする。なお、基本措置には、中止時点における工事の出来形、職員の休暇、労働者数、搬入材料及び建設機械器具等の資機材の状況を、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及びICT工事現場の維持・管理に関する適切な事項を明らかにする。
　また、工事の施工を一時中止する場合は、工事の瑕疵に備え工事現場を保全すること。

○3　各工事の施工計画　　(1.2.2)
　①仮設工事　　②土工事　　③地業工事　　④鉄筋工事　　⑤コンクリート工事　　⑥鉄骨工事
　・コンクリート　・ALC工事　・押出成形セメント板　・防水工事　・石工事
　・タイル工事　・木工事　⑦屋根及びとい工事　⑧金属工事　・左官工事
　・建具工事　・ガラス工事　・塗装工事　・内装工事　・ユニット及びその他　・排水工事
　○雑工事　・植栽工事　・解体工事

○4　施工図等の取扱い　　(1.2.3)
　施工図等の作成等に係ある当該建築物に及ぼす影響は、発注者に報告するものとする。

○5　設備工事との取合い　　(1.2.3)
　施工範囲　・工事区分表による　　②区分
　施工図　　設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

6　電気保安技術者　　(1.3.3)
　※納用する

7　発生材の処理等　　(1.3.11)
　・有償で売却するもの
　　・金属屑　・PCB含有物
　・特別管理産業廃棄物
　　・廃石綿　・揮発有物
　・現場において再利用を図るもの
　・

8　産業廃棄物管理票
　(1)日本産業廃棄物処理振興センター（http://www.sanpai-net.or.jp/）が運営する「情報処理センター」の登録を選択により行うこと。なお、より良い場合は情報管理を徹底する。

○9　建設副産物情報交換システム
　本工事の伝票を「建設副産物情報交換システム（COBRIS）」へ登録するものとし、総合施工計画書作成下、工事完了時及び各種情報に変更が生じた時点には、それぞれ速やかに手続入力を行う。また、COBRISにより、工事届書に記載の「建設副産物計画書」、「再生資源利用計画書」及び「建設副産物処理実績入力工事登録計画書」を、工事着手時に「建設副産物実績報告書（建設現場）」を作成し、監督職員に提出する。

○10　特定建設資材の処理　　(1.4.1)
　本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」による分別解体等及び届出義務の対象建設工事となることが想定されるため、同法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。
　工事規模に関わらなければならない事情により、やむをえない条件による難い場合は、監督職員と協議するものとする。
　なお、分別解体・再資源化等の実施時に、再資源化等が完了した年月　、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督職員に報告する。
○分別解体等の方法（建築工事）

	工程	作業内容	分別解体等の方法
1階ごとの解体方法	(1)建築設備、内装等	建築設備、内装材の取り外し ・有　・無	※手作業 ・手作業・機械作業の使用 例）上部場合の上目（　　）
	(2)屋根ふき材	屋根ふき材の撤去のし ・有　・無	※手作業 ・手作業・機械作業の使用 例）上部場合の上目（　　）
	(3)外壁材、上部構造部材	外壁材、上部構造部材取撤去 ・有　・無	・手作業・機械作業の使用
	(4)基礎、基礎ぐいの撤去	基礎、基礎ぐいの撤去 ・有　・無	・手作業・機械作業の使用
	(5)その他（各専門階・ガレ）	その他の取撤去 ・有　・無	・手作業・機械作業の使用

・分別解体等の方法（解体、撤去、撤去）工事

	工程	作業内容	分別解体等の方法
1階ごとの解体方法	(1)建築設備	建築設備の工事 ・有　・無	※手作業 ・手作業・機械作業の使用
	(2)基礎、基礎ぐい	基礎、基礎ぐいの撤去 ・有　・無	※手作業 ・手作業・機械作業の使用
	(3)上部構造部材の外装	上部構造部材、外装の撤去 ・有　・無	・手作業・機械作業の使用
	(4)屋根	屋根の工事 ・有　・無	※手作業 ・手作業・機械作業の使用
	(5)建築設備、内装等	建築設備、内装等の工事 ・有　・無	※手作業 ・手作業・機械作業の使用
	(6)その他（　　）	その他の工事 ・有　・無	※手作業 ・手作業・機械作業の使用

・有害建設資材等撤去の指針と再資源化等に関する解決

特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等を実施する施設の名称等	所在地
・コンクリート		
・コンクリートと鉄の混合物		
・アスファルト		
・木材		
・アスファルト・コンクリート		

近辺に依るべきものの説明明書に記載される廃棄物処理の再資源化等を行う施設に関する提示を行う。
　なお、当該施設に搬出することができない場合は、当該施設の変更についてはこの限りでない。

○11　環境への配慮　　(1.4.1)
　建築物内部に使用する材等は、設計又は主要の品質及び性能を変えると思い、次のアからエを満足するものとする。
　ア　合板、木質系ボード、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、その他の木質建材、ロックウール、ガラス繊維板、無機質繊維、樹脂、ゴム

3章　土工事

○1　盛土及び路土　(3.2.3)

材料および工法
※ 標準仕様書3.2.3による

種別	適用箇所	土質	写真撮影
・A種			
○B種	路盤		
・C種			
・D種			

○2　現場発生土の処理　(3.2.5)

○場外指定場所に搬出し、搬出後、盛土箇所へ搬出先の受入を証明する資料を提出する。

搬出場所　・土質処理場　伊豆市上白岩1271-1
受入条件　：
処分費　：
保証書類　：
土壌汚染のおそれ　・無　・有
既知有害物質：
分析測定　・無　・有
調査対象　※ 静岡県盛土等の規制に関する条例施行規則 別表第1の29物質

・場内指定場所に敷き均し
　・図示　・
・場内指定場所に埋戻
　・図示　・
なお、発注者の指示する調査箇所、処分費及び搬出費と異なる場合においても設計変更の対象としない。
静岡県建設発生土マッチングアプリシステム等により盛土事業場との調整を行うこと。

3　放置汚泥の処理
処理対象　・図示　・
処理方法　※ 再生資源化施設へ搬出　・
なお、「建設汚泥の再利用に関するガイドライン（平成10年6月22日国土交通省）」により建設汚泥の発生量の抑制に努めること。

4　設計地耐力
※ 図示　・

5　山留め　(3.3.1)(3.3.3)

鋼矢板等の抜き後の処理　※ 底ちに砂等で充填する　・
山留めの撤去　・有り　○無し
残置範囲　※ 図示　・

4章　地盤工事

○1　支持地盤等　(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.6)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.8)

○杭基礎
支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端の位置含む）　※ 図示
○直接基礎
支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む）　※ 図示
試験掘り（現況り底の状態の確認等）　・行う　・行わない
位置等　・図示

・杭の載荷試験
載荷試験の方法　・鉛直載荷試験
　・地盤工学会基準JGS（　　）による　・
　・水平載荷試験
　・地盤工学会基準JGS1531による　・
試験の位置、本数、載荷荷重　・図示による　・
報告書の記載事項　・

・地盤の載荷試験
載荷試験の方法　・平板載荷試験　・地盤工学会基準JGS1521による　・
試験の位置、載荷荷重　・図示による　・
報告書の記載事項　・

○2　既製コンクリート杭基礎　○特記仕様による　(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.9)(4.3.8)

種類　・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
　・プレストレストコンクリート杭（PC杭）
　・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
鋼管材料　・SM400　・SM490　・

杭の種類、性能及び施工強度等による区分（種別）、寸法、継ぎ手の例示等

	種類 種別	コンクリート強度 (N/mm2)	杭種 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (m)	継手 数	セット 数	長期設計 支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

杭先端形状　・開放型　・半開放型　・閉そく型　・
工法
　・セメントミルク工法
　　試験杭　試験杭の位置　・図示　・
　　掘削径　・図示　・
　　杭の支持層への根入れ深さ　・図示　・
　　杭の精度　水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・
　　埋込み時の杭の鉛直度　・1/100以内　・
　・特定埋込杭工法
　　・国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
　　・国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが下記の値を採用できる工法
　　α＝（　　）　β＝（　　）　γ＝（　　）
　　工法　・プレボーリング拡大根固め工法　・中掘り拡大根固め工法　・
　　杭頭固定筋　・使用する　・使用しない
　　試験杭　試験杭の位置　・図示　・
　　杭の支持層への根入れ長さ　※ 所定等の評価内容による
　　杭の精度　水平方向の位置ずれ　※ 所定等の評価内容による
　　埋込み時の杭の鉛直度　※ 所定等の評価内容による
　・杭の継手の工法　・アーク溶接継手
　　溶接材料　・7.2.3(1)(2)による　・図示　・
　　・機械式継手（継手部に機械金具を用いた方式のもの）
　　工法　※ 所定等を受けた工法
杭頭の処理等　・処理する　・処理しない
　処理方法（切断に伴う補強方法含む）　・図示　・
杭頭の中詰め材料　・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

3　場所打ちコンクリート杭基礎　(4.2.2)(4.5.1)(4.5.4)～(4.5.8)

工法　・アースドリル工法
　　安定液　※ 使用する　・使用しない
　・リバース工法
　・オールケーシング工法
　　孔内の水抜り　・行う　・行わない
併用する工法　・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
　　鋼管巻き材料　・SS400　・SM490
　・拡底杭工法
　　安定液　※ 使用する　・使用しない
　・

寸法等

	種別 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

試験杭　試験杭の位置　・図示　・
孔底の処理状況（孔底確認）
　測定箇所　・試験杭（　　）箇所及び本杭（　）箇所　・
杭の支持層への根入れ長さ　・図示　・
杭の精度　水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・所定等の評価内容による
　埋込み時の杭の鉛直度　・1/100以内　・所定等の評価内容による

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
・SD295		
・SD345		

鉄筋の加工及び組立
　鉄筋の最小かぶり厚さ　・図示　・
　鉄筋のあき　・100mm　・
　鉄筋かごの補強
　組み立てた鉄筋の継ごとの継手　※ 重ね継手（重ね継手の長さ　・図示　・　）
　・
　主筋の基礎底盤への定着長さ　・図示　・

セメントの種類　※ 高炉セメント種[G]
コンクリートの設計基準強度　・図示　・
コンクリートの種類　・A種　・B種　・所定等の評価内容による
スランプ　※ 18cm　・21cm
配合強度補正　※ 3N/mm2　・図示　・所定等の評価内容による

○5　場所基礎　(4.6.2)(4.6.3)

材料　○ 再生ゴム材[G]　・保護砂利及び保護砂石
範囲　○ 基礎下、基礎底下、土間スラブ下、土間コンクリート下　○ 図示
厚さ　※ 60mm　・

○6　独立フーチング基礎　(4.6.4)

範囲　○ 基礎下、基礎底下、土間スラブ下　○ 図示
厚さ　※ 50mm　・
設計基準強度　※ 18N/mm2　・
スランプ　※ 15cm又は18cm　・

7　底下捨コン層　(4.6.2)(4.6.8)

材料　・ダンプクラッシャラン厚さ0.15m以上　・
範囲　・掘削内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）
　砂利地盤の上に直接施工する場合は、防湿層の下に見つかぶし砂敷均し（t=30）

8　地盤改良工法
　種類及び施工方法等　・図示による　・

5章　鉄筋工事

○1　鉄筋　(5.2.1)

鉄筋の種類等

種類呼び名	呼び径 (mm)	備考
○ SD295	○ D16以下	
○ SD345	○ D19以上	
・	・	
・	・	

2　溶接金網　(5.2.2)

鉄筋の形状等

種類	種類の記号	鉄線の形状、線径寸法、鉄線の間隔(mm)	併用箇所
○ 溶接金網		○ 図示による	○
・鉄筋格子			

○3　鉄筋の継手　(5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)

鉄筋の継手の方法等

箇所	継手の方法		呼び径(mm)
柱、壁の主筋	○ ガス圧接	・機械式継手	
	・溶接継手	・重ね継手	
梁力筋の端部	・重ね継手	・	
その他の鉄筋（　　）	○ 重ね継手	・	

継手位置　・図示　・
柱及び耐震壁の重ね継手の長さ　・図示　・
梁力筋の重ね継手の長さ　・図示　・

○4　鉄筋の定着　(5.3.4)

鉄筋の定着長さ　○ 図示　・
鉄筋式定着工法　・適用する　・適用しない
　適用箇所　・図示　・
　種類　・標準圧着接合　・線ラグ付固定　・接合ラグ付固定　・
　工法　※ 第三者機関の所定等を取得している工法とする
　必要定着長さ　※ 所定等の評価内容による
　鉄筋端部形状　※ 所定等の評価内容による
　かぶり厚さ　※ 所定等の評価内容による
　品質確認　※ 所定等の評価内容による
　検査　※ 所定等の評価内容による

○5　鉄筋のかぶり厚さ及び鉄筋（現場溶接鉄筋含む）　(5.3.6)

最小かぶり厚さ　○ 図示　・
　※H地盤から算出を行う
型枠コンクリートを適用する場合　・有り　・無し
　適用箇所　：
　・最小かぶり厚さに加える厚さ(mm)　：
鋼矢板上不利な箇所がある場合（鉄骨等を受けるおそれのある部分等）　・有り　・無し
　適用箇所　：
　・最小かぶり厚さに加える厚さ(mm)　：

○6　各部配筋　(5.3.7)

○ 直接基礎の配筋　・図示　・各部配筋参考図1.1による
○ 基礎梁各部の箱抜配筋　・図示　・各部配筋参考図1.2による
○ 基礎梁主筋の継手、定着及び余長　・図示　・各部配筋参考図1.3による
○ 基礎梁のあばら筋　・図示　・各部配筋参考図1.4による
　柱主筋の継手、定着及び余長　・図示　・各部配筋参考図2.1による
　帯筋組立の形及び割付け　・図示　・各部配筋参考図2.2による
　柱の打増し補強　・図示　・各部配筋参考図2.3による
　大梁主筋の継手、定着及び余長　・図示　・各部配筋参考図3.1による
　あばら筋の組立の形及び割付け等　・図示　・各部配筋参考図3.2による
　梁の打増し補強　・図示　・各部配筋参考図3.3による
　小梁主筋の継手、定着及び余長　・図示　・各部配筋参考図3.4による
　片持梁主筋の定着及び余長　・図示　・各部配筋参考図3.5による
　壁の配筋　・図示　・各部配筋参考図4.1による
　壁の継手及び定着　・図示　・各部配筋参考図4.2による
　壁の交差部及び隅部の配筋　・図示　・各部配筋参考図4.3による
　壁の開口部補強　・図示　・各部配筋参考図4.4による
　壁の打増し補強　・図示　・各部配筋参考図4.5による
　ベラードの配筋　・図示　・各部配筋参考図4.6による
　スラブの配筋　・図示　・各部配筋参考図5.1による
　スラブ筋の定着及び受け筋　・図示　・各部配筋参考図5.2による
　片持スラブの配筋　・図示　・各部配筋参考図5.3による
　片持スラブ先端に壁が付く場合の配筋　・図示　・各部配筋参考図5.4による
　スラブ開口部補強　・図示　・各部配筋参考図5.5による
　出隅及び入隅部の補強配筋　・図示　・各部配筋参考図5.6による
　スラブの有筋ダボ補強配筋等　・図示　・各部配筋参考図5.7による
　壁厚のあるスラブの補強配筋　・図示　・各部配筋参考図5.8による
　片持スラブ部階段の配筋　・図示　・各部配筋参考図6.1による
　二辺固定スラブ隅角部の配筋　・図示　・各部配筋参考図6.2による
　施設通孔の配筋　・図示　・各部配筋参考図7.1による
　施設通孔の補強形式　・図示　・各部配筋参考図7.2による
　コンクリートｰｰｰ開口との取合い　・図示　・各部配筋参考図7.3による
　各部配筋参考図は公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（一般社団法人 公共建築協会発行）の参考書例による。

○7　ガス圧接継手　(5.4.10)

圧接完了後の圧接部の試験　※ 超音波探傷試験
　・引張試験
　　試験方法等　※ 標準仕様書5.4.10(f)(h)①～④による
　・

8　機械式継手　(5.5.3)(5.5.5)

適用箇所　※ 図示　・
JIS地盤面1-409等に適合する位置　・A級　・
種類　・ねじ式鉄筋継手
　　先端方式　・無開ダクト方式　・有開ダクト方式
　・無開ねじ加工継手
　・セクション先端式継手
　・
工法　※ 第三者機関の所定等を取得している工法
鉄筋相互のあき　※ 所定等の評価内容による
品質の確認　※ 所定等の評価内容による
検査　※ 所定等の評価内容による

施工完了後の鉄筋継手部の試験
　・外観試験
　　試験対象　※ 全数
　　試験項目　・所定等の評価内容による　・
　　試験方法　・所定等の評価内容による　・
　・超音波測定試験
　　試験対象　・抜取り
　　ロット　・1組の作業班が1日に行った鉄筋継手の最大200箇所程度とする
　　・
　　試験の個所数　1ロットに対して（　　）箇所
　　・全数
　　試験項目　※ 挿入長さ
　　試験方法　※JIS Z 3044(鉄筋コンクリート用機械式継手の超音波挿入長さ測定方法及び判定基準)による
不合格となった場合の措置　・

6章　コンクリート工事

○1　レディーミクストコンクリート製造工場
※ 品質管理監査検査合格工場（C認マーク取得工場）

○2　コンクリート種類　(6.2.1)

コンクリートの種別
　※ I 種(JIS A 5308～の適合を確認されたコンクリート)
　・ II 種(JIS A 5308に適合したコンクリート)

3　コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度　(6.2.1～4)(6.3.2)(6.10.1～3)

普通コンクリート

設計基準強度 (N/mm2)	スランプ	気乾単位容積質量 (t/m3)	適用箇所
・24	・	2.3強度	
・21	・		
・	・		

★印圧縮強度試験を適用しない
構造体強度補正値　※ 標準仕様書6.3.2による　・

軽量コンクリート

設計基準強度 (N/mm2)	スランプ	気乾単位容積質量 (t/m3)	種類	適用箇所
・	※ 21		・1種　・2種	
・				
・				

構造体強度補正値　※ 標準仕様書6.3.2による　・

○4　セメント　(6.3.1)

種類
　※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
　普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の値、水和熱が7日目で352J/gは以下、かつ、28日目で402J/gは以下のものとする。
　適用箇所　：
　・高炉セメントB種[G]
　　適用箇所　：
　・フライアッシュセメントB種[G]
　　適用箇所　：
　・

○5　骨材　(6.3.1)

アルカリシリカ反応性による区分　※ A　・B

○6　混和材料　(6.3.1)

○ 混和剤
　種類　※ 標準仕様書6.3.1(4)(a)による　・
　・混和材
　種類　※ 標準仕様書6.3.1(4)(b)による　・

7　暑中コンクリート　(6.11.1)(6.11.2)

適用期間　・図示
構造体強度補正値　・標準仕様書6.11.2(3)(ア)による　・個別温度による

8　暑中コンクリート　(6.12.2)

構造体強度補正値　※ 6N/mm2

9　マスコンクリート　(6.13.1)(6.13.2)

適用箇所　※ 図示による　・
セメントの種類　・普通ポルトランドセメント　・中庸熱ポルトランドセメント　・低熱ポルトランドセメント
　・高炉セメントB種[G]　・フライアッシュセメントB種[G]　・シリカセメント
　・
混和材料　・混和剤
　種類　※ 標準仕様書6.13.2(2)(ア)による　・
　・膨張材
　種類　※ 標準仕様書6.13.2(2)(イ)による　・
スランプ　※ 15cm　・
構造体強度補正値　※ 標準仕様書表6.13.1による　・

10　無筋コンクリート　(6.14.1)

コンクリートの種類　※ 普通コンクリート　・
セメントの種類　※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
　・高炉セメントB種[G]
　・フライアッシュセメントB種[G]
設計基準強度　※ 18N/mm2　・
スランプ　※ 15cm又は18cm　・
適用箇所　※ 標準仕様書6.14.1(4)(ア)～(ト)による　・

令和7年度　伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	建築工事特記仕様書(2)		
縮　尺	―	図面番号	特記―02
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
静岡県道路公社			

11 底盤化コンクリート (6.15.1)
適用箇所　・図示による　・

12 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、伸縮目地 (6.6.4)(6.8.1)(6.7.3)
打継ぎの位置　※ 標準仕様書6.6.4(1)による　・図示
目地寸法　※ 標準仕様書9.7.3(1)(7)による　・図示
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法　・図示

13 底版部コンクリートの仕上り (6.2.5)
合板せき板を用いるｺﾝｸﾘｰﾄの打放し仕上げ

種別	適用箇所
・A面	
・B面	
・C面	

ｺﾝｸﾘｰﾄ仕上りの平たんさ

種別	適用箇所
・a面	
・b面	
・c面	

14 打増し厚さ(打放し仕上げ面) (6.3.1)
・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
　・20mm　・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
　・10mm　・20mm

○15 型枠 (6.8.2)
せき板の材料及び厚さ　・合板[C]　・
　厚 12mm　・
・断熱材を使用した型枠材
　使用箇所　・図示　・
・型枠工法用ｼｰﾄ
　適用箇所　・図示　・
　打増し厚さ　・20mm　・
　打増し箇所　・図示による　・
ｽﾀｰﾄﾞﾚｽの材質・厚さ等　※ 図示　・

16 コンクリートの単位水量測定
実施要領　・図示　・

17 収縮スリット

方向	形状	最大間隔	目地材種類	備考
・橋軸方向	※ 垂直(垂直通筋)	・面内壁	・有り	
・水平方向	・	・側面壁	・無し	

目地(目地材の材質は標準仕様書9.7.1による)

部位	内面	外面
目地材	ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり面のみ)	ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり面のみ)
目地寸法(mm)	・幅20×深さ10　・	・幅20×深さ10　・

施工箇所　※ 図示

18 止水板
形式　・差込式　・挿筋式　・鉄筋式
施工位置　※ 図示

7章 鉄骨工事

○1 鉄骨の製作工場 (7.1.3)
※ 鉄道基礎工法第8条の25に基づき国土交通大臣から鉄道方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は
同等以上の能力のある工場
(　M　)ｸﾗｽ以上
・鉄骨現場の溶接する製作工場

○2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (7.1.4)
※ 配置する　・配置しない

○3 鋼材　○ 標準による (7.2.1)(7.2.10)
品質等

種類の記号	適用箇所(左欄の部分)	規格
		・JISによる　・
		・JISによる　・
		・JISによる　・
		・JISによる　・
		・JISによる　・
		・JISによる　・

4 高力ボルト (7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)(7.12.5)
ﾎﾞﾙﾄの種類　○ トルク形高力ﾎﾞﾙﾄ　○ JIS形高力ﾎﾞﾙﾄ　・
ﾎﾞﾙﾄの設置箇所、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　※ 図示　・
摩擦面の処理方法　○ 標準仕様書7.4.2(1)による
・
・すべり試験の実施
　・すべり係数試験　・すべり耐力試験
　すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.4.2(1)(イ)による摩擦面の種類は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

○5 普通ボルト
ﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄの材料 (7.2.3)(7.3.2)(7.3.8)
・標準仕様書7.2.3(JIS材料等品)又は次による
　ﾎﾞﾙﾄの強度は、JIS B 1180とする
　ﾎﾞﾙﾄの種類は、呼び径六角ﾎﾞﾙﾄ又は全ねじ六角ﾎﾞﾙﾄとし、材料は鋼とする
　ﾎﾞﾙﾄの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ﾎﾞﾙﾄの軸径の最大寸法は、ﾎﾞﾙﾄ径の値以下とする
　ﾅｯﾄの規格は、JIS B 1181とする
　ﾅｯﾄの種類は、六角ﾅｯﾄ(C)とし、材料は鋼とする
・
座金　※ JIS B 1256による
ﾎﾞﾙﾄの強度区分、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　・図示による　・
非摩擦面の取付けに使用するﾎﾞﾙﾄの孔径　※ ねじの呼び径＋1.0mm　・

○6 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2)(7.4.2)(7.12.5)
ﾎﾞﾙﾄの設置箇所、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　○ 図示による　・
摩擦面の処理方法　・ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)　・りん酸塩処理　・
・すべり試験の実施
　・すべり係数試験　・すべり耐力試験
　すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(ｲ)又は(ｴ)による摩擦面の種類は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

○7 アンカーボルト　○ 構造図による (7.2.4)(7.3.2)
・橋座用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
　種類　・A級400　・A級600
・地方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
　種類　・SS400　・
　ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差等ｸﾘｱﾗﾝｽ及び仕上げの種度　※ 標準仕様書表7.2.3による
　・
・標準仕様書7.2.4以外のｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
　適用箇所　・図示　・
　種類　・SS400
　ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差等ｸﾘｱﾗﾝｽ及び仕上げの種度　※ 標準仕様書表7.2.3による
　・
ﾎﾞﾙﾄの設置箇所、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　・図示　・

○8 溶接材料 (7.2.5)
使用材料　○ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による。

○9 ターンバックル (7.2.6)
種類
地盤用ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙﾎﾞﾙﾄ　※ 羽子板ﾎﾞﾙﾄ　・
鉄道用ターンバックル側　※ 側締式　・
ねじの呼び　・図示　・

10 床版遮音のデッキプレート (7.2.7)(7.7.8)
材質、形状及び寸法

	適用箇所	材質、形状、寸法	備考
・ﾌﾞﾗｲﾏﾘｰﾄ部鋼の側面			
・ﾌﾞﾗｲﾏﾘｰﾄとｺﾝｸﾘｰﾄとの合成効ｱﾘとする構造			
・			

開口部補強筋(補強筋の定着長さ等を含む)　・図示による　・
鉄骨部材への溶接方法　・図示による　・
耐火厚定　・有り　・無し
　耐火時間　・図示による　・

11 スタッド (7.2.8)

呼び径	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

○12 鉄筋用モルタル (7.2.9)
鉄筋径25mmとする場合の材料、調合等　※ 標準仕様書7.2.9(2)(ｱ)から(ｴ)による
・

○13 鋼材検査 (7.3.3)
鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則8 [鉄骨精度検査基準] に加えて、次による
道しるべプラスの突合せ継手の食い違いの寸法　※ 道路橋示方書1464号第二号イ(2)による
・
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの寸法　※ 道路橋示方書1464号第二号イ(3)による　・
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補修方法
　・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
　・

○ 検査図による (7.3.10)
制作を行う範囲　○ 検査図による　・

15 溶接作業における鉄筋表面の炭素付加試験 (7.6.3)
溶接作業部の炭素付加試験　※ 行わない　・行う
試験の頻度　・図示

○16 摩擦面 (7.6.4)(7.6.7)
開先の形状　○ 図示による　・
鉄筋コードﾞを切断する部分
　切断する箇所　・図示　・
　切断範囲　・鉄筋コードﾞ部、底面で金等は、端ﾌﾗﾝｼﾞの端から5mm以下を残して底部上に切断する。なお、切断部が交差する場合は、交差部をﾌｰﾄ状に加工する。
・
　切断面の仕上げ　○ 標準仕様書7.6.7(1)(ｲ)(ﾛ)(ﾊ)による　・
ｽﾀｯﾌﾟの形状　○ 図示　・
摩擦ﾌﾗｯﾄﾊﾞｰの使用
　摩擦ﾌﾗｯﾄﾊﾞｰを使用する場合は鉄鋼材料の実施する摩擦試験の合格者等しくは、日本コードﾞ協会の実施する施工管理会受講者が施工すること。
　母材力向き(引張)をうける部位　・有り
　　位置　※ 図示　・

17 入熱、パス間温度の管理条件 (7.8.7)(7.8.10)
鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件　・図示　・
適用箇所　・図示　・柱、梁、ブレースのﾌﾗﾝｼﾞ端部の完全溶込み溶接部

○18 溶接部の試験 (7.8.12)
平1道路橋示第1464号第二号に関する外観試験方法等
○ 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
　・傷を取り検査①　※ 傷を取り検査②
JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準] の付則3「溶接」に関する試験方法等
○ JASS 6 10.4 [受入検査] 4.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抽出箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、全て標準仕様書7.8.12による補修を行い、再検査する。
完全溶け込み部の超音波探傷試験
　※ 行う　・行わない
　○ 工場溶接の場合
　　AOQL(%)　※ 4.0　・2.5

検査	○ 全て	・	・	・	・
検査水準	※ 図6水準	・	・	・	・

　・工場現場溶接の場合　※ 全て

19 錆止め塗装 (7.8.2, 4)(10.3.2)
塗装の範囲
　鋼材被覆材の接着する部の塗装範囲　・図示　・
　鋼材被覆材の接着する部以外の塗装範囲　・標準仕様書7.8.2(1)(ｱ)～(ｴ)による
塗料の種類
　・下記以外の塗装箇所は、3章[塗装工事]による
　・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面の錆止め塗料の種類
　　※ 4種
　・鋼材被覆材が接着する部の塗料の種類
　　・

20 鋼材被覆 (7.9.2)～(7.9.6)
種類、材料、工法等

種別	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
・耐火塗料仕上げ	・耐火塗料ｱｲﾃﾞｱﾌﾟﾗﾝﾄｰﾄ		
	・早強式耐火材ｱｲﾃﾞｱﾌﾟﾗﾝﾄｰﾄ		
	・吹付ｱｲﾃﾞｱﾌﾟﾗﾝﾄｰﾄ		
	・		
・耐火板張り	・鉄鋼用人造けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高耐熱ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・		
・ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	―		
・耐火塗料	・		

○21 アンカーボルトの設置等　○ 構造図による (7.10.3)
橋座用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの形状及び寸法
　・図示による　・
鉄道用ｱﾝｶｰﾌﾚｰﾑの形状及び寸法
　・図示による　・
地方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの形状及び寸法
　・図示による　・
地方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法
　種別　・A種　・B種
他座均しﾓﾙﾀﾙの厚さ及び工法の種別
　厚さ　・　・
　種別　※ A種　・B種

22 埋設部検査 (7.11.2)
ﾎﾞﾙﾄの接合部　・普通ﾎﾞﾙﾄ接合　・

8章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造 (8.2.2)(8.2.3)(8.2.5)(8.2.7)(8.2.8)
ﾌﾞﾛｯｸの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ｾﾒﾝﾄ用ﾓﾙﾀﾙ強度(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・				・無　・有		
・				・無　・有		
・				・無　・有		

ﾓﾙﾀﾙの調合(容積比)　※ 表8.2.1による　・セメント　(　　)：砂(　　)
各部の配筋　※ 図示　・
目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のﾌﾞﾛｯｸのﾓﾙﾀﾙ又はｺﾝｸﾘｰﾄで充填する範囲　※ 図示

2 コンクリートブロック帯梁及び壁 (8.3.2)～(8.3.4)
ﾌﾞﾛｯｸの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ｾﾒﾝﾄ用ﾓﾙﾀﾙ強度(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(8.2.1)以外の適用箇所	備考
・				・無　・有		
・空洞ﾌﾞﾛｯｸ(1種)				・無　・有		
・空洞ﾌﾞﾛｯｸ(2種)				・無　・有		

ﾓﾙﾀﾙの調合(容積比)　※ 表8.2.1による　・セメント　(　　)：砂(　　)
壁に用いるﾌﾞﾛｯｸの正味厚さ(mm)　壁の高さが3m以下　※ 120
　2m超え　※ 150
鉄筋格子の配筋、底盤及び床版部の折り曲げ形状　※ 図示
各部の配筋　※ 図示

3 ALCパネル (8.4.2)～(8.4.5)
ALCﾊﾟﾈﾙの区分等

区分		単位荷重(N/m²) 面内荷重	面外荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火時間(時間)	構造の種別
・外壁用	・一般 ・ｶｰﾃﾝ	・ｱ ・ｲ	・	・	・	図示による	・なし ・1	・A種　・B種
・間仕切壁用	・一般 ・ｶｰﾃﾝ	・ｱ ・ｲ	・	・	・	図示による	・なし ・1	・C種　・D種
・屋根用	・一般 ・ｶｰﾃﾝ	・ｱ ・ｲ	・	・	・	図示による	・0.5	図示種
・床用	・一般 ・ｶｰﾃﾝ	・ｱ ・ｲ	・	・	・	図示による	・1 ・2	

ﾊﾟﾈﾙの設置の場合に挿入する鉄筋材料　・
外壁、間仕切ﾊﾟﾈﾙの工法
　1章　適用区分による風圧力の(　・1　・1.15　・1.3　)倍の耐風圧性能
外壁ﾊﾟﾈﾙ接合及び開口部切り欠ﾊﾟﾈﾙ接合における耐震性能
　地震非時強度材の固定性能に係る物配事項による
ﾊﾟﾈﾙ幅の最小限度を300mm未満とする場合　・図示
目地幅(mm)
　(ﾊﾟﾈﾙ幅)小口相互の接合部、外壁、間仕切壁ﾊﾟﾈﾙの出隅及び入隅のﾊﾟﾈﾙ接合部並びにﾊﾟﾈﾙと他部材との取合い部)
　　※ 15mm
外壁、間仕切り壁パネルの外端目地への開口目地材の充填　・適用する　・適用しない

4 押出成形セメント板工事
ﾊﾟﾈﾙの種類等

ﾊﾟﾈﾙの種類	形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁ﾊﾟﾈﾙ	・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ ・ﾘﾌﾞﾊﾟﾈﾙ ・ｴﾝﾎﾞｽﾊﾟﾈﾙ	・60　・80　・ ・80　・80 ・80	・600	・A種 ・B種	
・間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ	・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ ・ﾘﾌﾞﾊﾟﾈﾙ ・ｴﾝﾎﾞｽﾊﾟﾈﾙ	・60　・80　・ ・80　・80 ・80		・C種 ・D種	

外壁ﾊﾟﾈﾙの工法における耐風圧性能
　1章　適用区分による風圧力の(　・1　・1.15　・1.3　)倍の耐風圧性能
外壁ﾊﾟﾈﾙ接合及び開口部切り欠ﾊﾟﾈﾙ接合における耐震性能
　地震非時強度材の固定性能に係る物配事項による
ﾊﾟﾈﾙ幅の最小限度を300mm未満とする場合　・あり
ﾊﾟﾈﾙ相互の目地幅(mm)　・長辺(　　)　短辺(　　)
出隅及び入隅のﾊﾟﾈﾙ接合目地の目地幅(mm)　※ 15mm度
開口部周辺の目地及び隙間の処理　※ ﾊﾟﾈﾙ組立例の仕様
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表のｔ及を限度とし、欠損部分を補修した強度を確認した強度を確認する。

		見あり及び欠き込みの大きさ	開口部のﾊﾟﾈﾙの残りの長さの幅
・ﾊﾟﾈﾙに孔あけ	開口	・ﾊﾟﾈﾙの1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以下
・長辺に欠き込み	長辺	300mm以下	300mm以下
・ﾊﾟﾈﾙに欠き込み	短辺	・ﾊﾟﾈﾙの1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以下
みを設ける場合	両辺	300mm以下	300mm以下

9章 防水工事

1 アスファルト防水 (9.2.2)～(9.2.5)(9.2.7)～(9.2.9)
【屋根部防水】
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材[G]	熱絶縁用シート
・A-1			※ ｽﾃﾝﾚｽﾌｨﾙﾑ厚さ0.1mm以上又はﾌﾗｯﾄｰﾝﾌｨﾙﾑ70g/m2程度
・A-2			・
・A-3			
・B-1			
・B-2			
・AJ-1		(種類) ※ JIS A 9521に基づく押出独泡ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材巻付型bA(ｽｷﾝ層付き)	※ ﾌﾗｯﾄｰﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.1mm
・AJ-2			・
・AJ-3			
・AJ-1		(厚さ)(mm)	
・AJ-2		・	

密着ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書9.2.3から表9.2.4による
　・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・非露出単層防水用　・非露出複層防水用
　　材料による区分　※ 2種
　　厚さ(mm以上)　：
部分絶縁層付密着ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書表9.2.5から表9.2.6による
　・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・非露出単層防水用　・非露出複層防水用
　　材料による区分　※ 2種
　　厚さ(mm以上)　：
立上り部への断熱材及び絶縁シート　※ 設置しない　・設置する
平場の保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ　こて仕上げ　※ 水下80mm以上
　床タイル張り　※ 水下60mm以上
立上りの保護工法
　・既式保護材(品質・性能、試験方法は別表による)
　　骨材系ﾓﾙﾀﾙ類　厚さ(mm)　：
　　幅(mm)　：
　・れんが押え
　　※ JIS A 1250　・
　・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え
　・ﾓﾙﾀﾙ押え(屋内)

【屋根露出防水】
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材[G]	仕上材料 種類	仕上材料 使用箇所	高日射反射率防水の適用[R]
・B-1			・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ防水の構造所の仕様	・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ防水の構造所の仕様	・適用する
・B-2					・適用する
・DI-1		9.2.2(3)による 種類　： 厚さ(mm)　：			・適用する
・DI-2					・適用する

密着ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書表9.2.8による
　・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・露出単層防水用　・露出複層防水用
　　材料による区分　※ 2種
　　厚さ(mm以上)　：
部分絶縁層付密着ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書表9.2.7から表9.2.8による
　・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・露出単層防水用　・露出複層防水用
　　材料による区分　※ 2種
　　厚さ(mm以上)　：
絶縁材料上部及びﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ及び立上り部周辺の衝撃材の要りじまい位置　※ 図示
絶縁工法及び絶縁材工法の脱気装置の種類及び設置数量
　種類　※ ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ層の無通気の場合　・
　設置数量　※ ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ層の調査所の指定　・1　　)個

【屋内防水】
防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層　・設ける
　　※ 図示
　　・設けない
ｼｰﾄの工法Bを行う部位　※ 貯水槽、排煙等常時水に接する部位　・
防水層の下地の立上り　※ ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ 標準仕様書表9.2.4[打放し仕上げ箇所]の場合
　・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法　※ 7mに対し間 L-30×15×2.0mm
　・
防水層の下端のｼｰﾄ張り　・適用する
　施工箇所　※ 図示　・
　・適用しない
最上部水槽　※ 図示

令和7年度　伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	建築工事特記仕様書(3)		
縮　尺	―	図面番号	特記―03
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
静岡県道路公社			

2 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2)～(9.4.4)(表9.4.1)～(表9.4.3)

防水層の種別

種別	記号	仕様	仕上塗料		備考
			種類	使用箇所	
・S-F1			・ルーフィングシートの側溝所の仕様	※ ルーフィングシートの開溝所の仕様	・適用する
・S-F2					・適用する
・S-W1			・ルーフィングシートの側溝所の仕様	※ ルーフィングシートの開溝所の仕様	・適用する
・S-W2					・適用する
・S-W3					・適用する
・SI-F1		標準仕様書9.4.2(3)(ハ)(b)(種類)	・ルーフィングシートの側溝所の仕様	※ ルーフィングシートの開溝所の仕様	・適用する
・SI-F2		・(厚さ)			・適用する
・SI-W1		標準仕様書9.4.2(3)(ハ)(a)(種類)	・ルーフィングシートの側溝所の仕様	※ ルーフィングシートの開溝所の仕様	・適用する
・SI-W2	※ 新規ポリエチレンシート	(厚さ)			・適用する

S-F1、S-W1、S-F2、S-W2の仕様　※ 非多行仕様　・解多行仕様

SI-W1及びSI-W2における防護フィルム　・使用する　・使用しない

【屋内防水】

防水層の種別

種別	施工箇所	仕様		備考
		種類	使用箇所	
・S-C1	・	・		厚7mm以下

平場のモルタル防水層における目地の目地割および間隔

目地割　※ 目地割3m間隔、最大目地間隔3m程度　・

目地の種類　※ 押し目地

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書9.4.3から選ぶ.4.3による

・JIS A 6008に適づく種類及び厚さ

種類　・

厚さ(mm以上)　・

固定金具の材質、形状及び寸法

※ 厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面当しくは両面に樹脂を被覆加工したもの

・

接着工法の場合の張付面の種類及び張付剤

種類　※ ルーフィングシートの側溝所の仕様　・

塗布量　※ ルーフィングシートの側溝所の仕様　・

接着工法の場合のアンカーボルト部材下地の目荒処理

・ 行う

・ 図示　・

・ 行わない

アンカーボルト部材の入隅部の増張り（種別S-F1、S-W1の場合）

・ 行う

・ 図示　・

・ 行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

1章 適用区分による風圧力の（ 1 ・ ）倍の風圧力に対応した工法

3 塗膜防水 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料		備考	記号
		種類	使用箇所		
・E-1		・主材料の製造所の仕様 ・	※ 主材料の製造所の仕様 ・		・適用する
・E-2		・主材料の製造所の仕様 ・	※ 主材料の製造所の仕様 ・		・適用する
・E-3	※ 地下外壁防水 ・				
・E-4	※ 屋内防水				・適用する ・適用しない

ウレタン系塗膜防水材（1成分型塗膜の種類及び仕様塗量

種類　※ 主材料の側溝所の仕様　・

塗膜厚　※ 主材料の側溝所の仕様　・（ ）層

4 ケイ酸質系塗布防水 (9.6.4)(表9.6.1)

防水層の下地

壁　※ コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 ※層）　・

天井　※ コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 ※層）　・

下地処理

コンクリートの打継ぎ箇所の処理

※ 打継ぎ部分に対し、幅300mm程度の目地砂を用いる。目地砂の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸質系含浸防水材の側溝所の仕様により、ガラセメントペーストを充填する。

・図示

・

標準仕様書9.6.4(3)の(イ)(ロ)以外の下地処理

・図示　・

○5 シーリング (9.7.2)(9.7.3)(9.7.6)(表9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。

ただし、外壁ALC板張部目地の場合のシーリングは1成分系、ガラスまわり目地の場合のシーリングは2成分系による

施工箇所	シーリング材の種類(記号)
外壁水切り	変成シリコン系(S-2)

仕上げを行わない施工箇所　・ 図示　・

シーリング材の目地寸法

打継ぎ目地　※ 幅20mm×深さ10mm以上　・

ひび割れ誘発目地　※ 幅20mm×深さ10mm以上　・

ガラス周り目地　※ 幅 6mm×深さ 5mm以上　・

その他の箇所　※ 幅10mm×深さ10mm以上　・

接着性試験　※ する

※ 被着体接着性試験　・ 引張接着性試験

・ しない

10章 石工事

1 施工 (10.1.1)

石材の割付け　・ 図示

2 石材等 (10.2.1)(10.2.3)(表10.2.1)(表10.2.2)

外部床

施工箇所	石材の種類	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床面		・図示 ・			

ジェットバーナー仕上げのベブ仕上げの有無　・ あり　・ なし

テラゾブロック

施工箇所	石の種類	石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石 ・ 花こう岩	※ 3.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	石の種類	石の大きさ(mm)	寸法による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石 ・ 花こう岩	※ 3.5～12 0	・300型 ・400型			

その他の材料

取付け用ボルト　※ 専門工事業者の指定する製品　・

調合のモルタル　※ 専門工事業者の指定する製品　・

浸透性吸水防水剤　※ 専門工事業者の指定する製品　・

石面防水剤　※ 専門工事業者の指定する製品　・

表面処理剤　※ 専門工事業者の指定する製品　・

ドレッシングの材質　※ 樹脂ポリ性ポリマ　クリスタル塗布　・

金物の固定に使用する充填材料等　※ 専門工事業者の指定する製品　・

3 外壁湿式工法 (10.2.2)(10.2.3)(10.3.2)(10.3.3)

受金物

材質　※ SUS304　・

形状及び寸法　・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm又は150mm　・

アンカーの材質及び寸法

材質　※ SS400

寸法　・

あと施工アンカーの材質及び寸法等

種類　・

材質　・

寸法　・

ドレッシング

・ 設ける

位置　・ 図示

・ 設けない

石張部処理　・ 適用する　・ しない

座打ち処理　・ 適用する　・ しない

下地ごしらえ　※ あと施工アンカー・鉄筋差し工法　・ あと施工アンカー工法　・ 差し筋工法

目地

一般目地

種別	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地砂砂	・		
・既調合の目地モルタル	・		
・シーリング材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による　・

伸縮調整目地

位置　・ 標準仕様書10.6.2(5)(イ)(a)による　・ 図示

シーリング材の種類　※ 標準仕様書表9.7.1による　・

目地寸法　※ 幅・深さとも10mm以上　・ 図示

4 内壁湿式工法 (10.3.2)(10.4.2)(10.4.3)

受金物

材質　※ SUS304　・

形状及び寸法　・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm又は150mm　・

あと施工アンカーの材質及び寸法等

種類　・

材質　・

寸法　・

石張部処理　・ 適用する　・ しない

座打ち処理　・ 適用する　・ しない

下地ごしらえ　※ あと施工アンカー・鉄筋差し工法

・ あと施工アンカー工法

一般目地

種別	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地砂砂	・		
・既調合の目地モルタル	・		
・シーリング材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による　・

伸縮調整目地

位置　・ 6m間隔　・

シーリング材の種類　※ 標準仕様書表9.7.1による　・

目地寸法　・

6 外壁乾式工法 (10.2.2)(10.5.2)(10.5.3)(表10.2.4)

乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等

※ 標準仕様書表10.2.4による

方式　・ スライド方式　・ ロッキング方式

・

あと施工アンカーの材質及び寸法等

種類　・

材質　・

寸法　・

だぼ穴の位置　※ 標準仕様書10.5.2(2)(ア)による　・ 図示

座打ち処理　・ 適用する　・ 適用しない

地震並等時に基づく風圧力に対応した工法

1章 適用区分による風圧力の（ 1 ・ 1.15 ・ 1.3 ）倍の風圧力に対応した工法

シーリング材

種類　※ 標準仕様書9.7.1による　・

目地幅及び深さ　・

6 床及び階段の石張り (10.5.2)(10.6.3)

防湿性吸水防水層

床石張り　・ 適用する　・ 適用しない

石面処理

床石張り　・ 適用する　・ 適用しない

階段張り　・ 適用する　・ 適用しない

座打ち処理

床石張り　・ 適用する　・ 適用しない

一般目地

種別	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地砂砂	・		
・既調合の目地モルタル	・		
・シーリング材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による　・

伸縮調整目地

位置　・ 標準仕様書10.6.2(5)(イ)(a)による　・ 図示

シーリング材の種類　※ 標準仕様書表9.7.1による　・

目地寸法　※ 幅・深さとも10mm以上　・ 図示

7 笠木、甲板等の石張り (10.2.2)(10.7.1)(10.7.2)

取付工法　・ 湿式工法　・ 乾式工法

裏側部位用金物

材質　※ SUS304

寸法等

引金物　※ 標準仕様書10.2.3による　・

だぼ　※ 標準仕様書10.2.3による　・

かすがい　※ 標準仕様書10.2.3による　・

受金物　※ 標準仕様書10.2.2(1)(イ)による　・

乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等

ファスナー　※ 標準仕様書表10.2.4に掲げる

方式　・ スライド方式　・ ロッキング方式

・ 図示

あと施工アンカーの材質及び寸法等

種類　・

材質　・

寸法　・

石面処理　・ 適用する　・ 適用しない

乾式工法の場合の取り付け代　※ 70mm程度

石材の裏面の補強用モルタル　・ 適用しち　・ 適用しない

一般目地

種別	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地砂砂	・		
・既調合の目地モルタル	・		
・シーリング材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による　・

伸縮調整目地

位置　・ 標準仕様書10.6.2(5)(イ)(a)による　・ 図示

シーリング材の種類　※ 標準仕様書表9.7.1による　・

目地寸法　・ 図示

11章 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)(表11.1.1)

位置　※ 標準仕様書表11.1.1による　・ 図示

目地寸法　・ 図示

2 見本検査、試験施工

見本検査　・ 行う

施工箇所　・

・ 行わない

試験張り　・ 行う（場面、仕様等は図示による）　・ 行わない

3 セメントモルタルによるタイル張り (11.2.2)(11.2.3)(11.2.6)(11.2.7)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材の適用[5]	吸水率による区分			うわぐすり		磁器		色		耐寒性	耐凍害性	備考
				I類	II類	III類	施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な張り方の場合は一体施工とする

既調合モルタル（品質・性能、試験方法は別表による）

セメントを結合材とした既調合モルタルで、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の配合に配合した材料とする。

既調合目地材（品質・性能、試験方法は別表による）

下地モルタル塗り　※ 目荒し工法(高圧洗浄)

・ 凹凸工法

・

目タイル張りの工法

内外部モルタル　・ 接着張り　・ 改良積上げ張り

内部タイル(内外のタイル)モルタル　・ マスク張り　・ ウレタンモルタル張り

4 有機系接着剤によるタイル張り (11.3.2)～(11.3.6)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材の適用[5]	吸水率による区分			うわぐすり		磁器		色		耐寒性	耐凍害性	備考
				I類	II類	III類	施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な張り方の場合は一体施工とする

内部タイル接着剤張りの接着剤のSMATDゲル放散量　※ F☆☆☆☆　・

目地のシーリング材

打継ぎ目地　※ ポリウレタン系シーリング材　・

ひび割れ誘発目地　※ ポリウレタン系シーリング材　・

伸縮調整目地　※ 変成シリコン系シーリング材　・

下地調整材塗りを行うコンクリート面地盤の下地処理

※ 目荒し工法(高圧洗浄)　・ MCR工法　・

外壁タイルの目地詰め　・ 行う　・ 行わない

12章 木工事

1 施工一般 (12.2.1)

材料のホルムアルデヒド放散量

※ F☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ウ)(b)による

・

2 製材(可) (12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

県内産木材の適用がない場合でも可能な範囲で県内産木材の使用に努めること

根拠：静岡県産材証明制度の「県産材販売管理簿」により報告すること

・合法的に生産された木材を使用すること。

根拠：木材・木製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月 農林水産庁作成)

に準拠した証明書により報告すること

造作材の材面の品質の基準　※ A種　・ B種

・ JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	防腐処理	防蟻処理の適用
		※ 2級 ・	※ A種 ・ B種 ・		・ 有 ・ 無
		※ 3級 ・	※ A種 ・ B種 ・		・ 有 ・ 無
		※ 2級 ・	※ A種 ・ B種 ・		・ 有 ・ 無

県産木材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

・ JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	防腐処理	防蟻処理の適用
見掛面		※ 上小節 ・	※ A種 ・ B種 ・		・ 有 ・ 無
見掛面以外		※ 小節以上 ・	※ A種 ・ B種 ・		・ 有 ・ 無
		※ 2級	※ A種 ・ B種 ・		・ 有 ・ 無

県産木材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

・ JAS 1083-5 製材-第5部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	防腐処理	防蟻処理の適用
		※ 1等 ・	※ 15%以下 ・ A種 ・ B種		・ 有 ・ 無
		※ 1等 ・	※ 15%以下 ・ A種 ・ B種		・ 有 ・ 無

県産木材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

・ JIS 1063 (製材) 目外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	防蟻処理の適用
		(　　) 造作材の場合 ※ A種 ・ B種	・ 適用する ・ 適用しない	※ A種 ・ B種	・ 有 ・ 無
		(　　) 造作材の場合 ※ A種 ・ B種	・ 適用する ・ 適用しない	※ A種 ・ B種	・ 有 ・ 無
		(　　) 造作材の場合 ※ A種 ・ B種	・ 適用する ・ 適用しない	※ A種 ・ B種	・ 有 ・ 無

県産木材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

4 造作用集成材 (9) (12.2.1)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	仕上げ材面	見付け材面の品質	防腐処理の適用
					※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無
					※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無
					※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無

県産木材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質	防腐処理の適用
		化粧薄板： 芯材：				※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無
		化粧薄板： 芯材：				※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無
		化粧薄板： 芯材：				※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無

県産木材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	防腐処理の適用
				※ 15%以下 ・	・ 有 ・ 無
				※ 15%以下 ・	・ 有 ・ 無
				※ 15%以下 ・	・ 有 ・ 無

県産木材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

令和7年度　伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	建築工事特記仕様書(4)		
縮　尺	―	図面番号	特記―04
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
静岡県道路公社			

・JIS G 0701に基づく表面性状記号

施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質	仕上げ	防錆処理	同等材等の適用
			※14S以下	・適用する ・適用しない	・有 ・無
			※14S以下	・適用する ・適用しない	・有 ・無

原盤本材の適用　・適用する　・適用しない

・JIS G 3079に基づく表面性状記号

施工箇所	品名	強度等級	種別	表面性状 (使用箇所)	商標名	寸法 (mm)	同等材等の適用
							・有 ・無
							・有 ・無
							・有 ・無

6 合板等 (12.2.1)

・「合板の日本農林規格」による普通合板[G]

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の種類	表面の品質		防虫処理	同等材等の適用
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・		・適用する ・適用しない	・有 ・無

原盤本材の適用　・適用する　・適用しない

・「合板の日本農林規格」による特殊合板[G]

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の種類	表面の品質	厚さ (mm)	防虫処理	表面等級	防錆処理	同等材等の適用
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-B以上 ・	※12 ・	・有 ・無	・有 ( ) ・無	・適用する ・適用しない	・有 ・無

原盤本材の適用　・適用する　・適用しない

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の種類	防虫処理	同等材等の適用
			・1類　・特類	・適用する ・適用しない	・有 ・無

原盤本材の適用　・適用する　・適用しない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧面に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の種類	防虫処理
			・1類　・2類	・適用する ・適用しない
			・1類　・2類	
			・1類　・2類	

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の種類	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類　・2類			・適用する ・適用しない
		・1類　・2類			
		・1類　・2類			

・パーティクルボード[G]

施工箇所	表面層の状態による区分	曲げ強さによる区分	吸水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)
		※13タイプ ・	※P又は18 ・		※15 ・
		※13タイプ ・	※P又は18 ・		※15 ・

・JIS G 3190に基づく普通用ボード

施工箇所	寸法(mm)

・繊維板[G]

施工箇所	厚さ (mm)	表面層の状態による区分	曲げ強さによる区分	吸水性による区分	難燃性による区分

7 接合具等 (12.2.2)

埋込材の化粧隠し打ち　※隠し釘打ち　・つぶし隠し打ち　・釘頭潰し

特殊釘　※かすがい、金具、特殊釘、組合金物

(標準仕様書表12.2.3～表12.2.5に示す種類の市販品　表14.2.2の種類相当)

・

8 接着剤 (12.2.2)(12.2.3)

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・

9 防腐・防蟻処理 (12.3.1)(12.3.2)

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による制材

適用部位　：

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分		
	・K2	・K3	・K4
	・K2	・K3	・K4
	・K2	・K3	・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法	薬剤の種類
	市販制作製造者の仕様による ・ ・	表JIS K 1571に適合または同等品

・薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理

適用部位　：

・合板等の加圧注入処理の適用

適用部位　：

10 内部開口部周辺及び床廻り (12.4.1)

・開口部周辺に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ おまたは広葉樹材の適用　・適用する　・適用しない

・床廻りに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ おまたは広葉樹材の適用　・適用する　・適用しない

11 窓、出入口その他 (12.5.1)

・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ 吊元神、水抜ふりの下枠及び敷居はかの合、その他は特記仕様

原盤材の適用　・適用する　・適用しない

12 床板張り (12.6.1)

・畳甲板及びかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ 檜

原盤材の適用　・適用する　・適用しない

13 軒及び天井下地 (12.7.1)

・軒桁、野縁受材、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ 檜

原盤材の適用　・適用する　・適用しない

13章　屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺 (13.2.2)(12.2.3)(表13.2.1)(表13.2.2)

施工箇所	板及びふき材の種類	表面の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用 着色 ・有 ・無 ・	・B種(AZ150) ・	・0.4 ・0.5	・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・横平葺 ・横葺 ・	

下葺材料　・アスファルトフェルト940

・改質アスファルトフェルト下葺材

・一般タイプ　・強風対応タイプ　・粘着層付きタイプ

棟頂部の場合のけらば納め　・つかみ込め納め　・けらば包み納め

工法　1項 適用区分による風圧力の（　※1　・1.15　・1.3　）倍の風圧力に対応した工法

瞬間性能に対応した工法の適用　・適用する　・適用しない

折半のけらば納め　※けらば包みによる方法

雪止め　・設置する

形状及び施工箇所　・図示

・設置しない

○2 板葺 (13.3.2)(13.3.4)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分		勾配による区分	材料による区分	厚さ (mm)	防火区画戸数	防火性能
		山高	山ピッチ					
屋根	・宮板葺 ○ はぜ掛け葺 ・かん合葺 ・	160・60		( )度	※ 例制瓦 ・アルミニウム合金板瓦		○ 有 ・無	・30分 ・無

※ JIS A 6514 のうち6.3 及び6.4 は適用しない

材料

折半の材質の種類　○ JIS G 3322の屋根用

着色　・有　○ 無

・

溶融亜鉛めっき付着量　・F種(AZ150)　・

断熱材張り　・行う

断熱材の種類　：

厚さ(mm)　：

防火性能　：

工法　1項 適用区分による風圧力の（　※1　・1.15　・1.3　）倍の風圧力に対応した工法

瞬間性能に対応した工法の適用　・適用する　・適用しない

折半のけらば納め　※けらば包みによる方法

雪止め　○ 設置する（図示）

形状及び施工箇所　○ 図示

・設置しない

3 瓦工事 (13.4.2)(13.4.3)

施工箇所	種類			屋地	後物瓦の種類	雪止め瓦
	葺法による区分	形状による区分	寸法による区分			
						・適用する ・適用しない
						・適用する ・適用しない

雪止めの防災瓦の使用　・適用する　・適用しない

JIS A 5208に基づく粘土瓦葺等　・行う　・行わない

瓦桟木　材質　※ 杉

寸法　※ 幅21×高さ15(mm)以上　・

棟部補用心材　材質　※ 杉

寸法　※ 幅40×高さ30(mm)以上　・

瓦棟部用釘及びねじ

種類　：

径　：

長さ　：

棟部等に使用する金物等

材質　・ステンレス製　・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製

形状、寸法及び留付け方法　※ 図示による

工法　1項 適用区分による風圧力の（　※1　・1.15　・1.3　）倍の風圧力に対応した工法

風圧力又は地震力に対応した瓦の脱落防止策　※　図示

瓦桟木の留付け工法　※ 図示

袖の工法　※ 寸寸丸伏せ袖又はP型袖瓦伏せ袖　・のし積み袖　・

棟戸、雀口、雪止の設出する瓦葺合部に仕上げを施す場合　・セメント　・瓦葺き用しっくい

○4 とい (13.5.2)(13.5.3)(表13.5.4)

といその他の材種　・配管用鋼管

○ 硬質ポリ塩化ビニル管

・ルーフドレン

・雨樋処理鋼板

表面及び裏面の塗膜の種類　・

とい受金物　材質　※ 標準仕様書13.5.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）

・

形状　※ 市販品（とい幅100以下）

・25x4.5（とい幅100を超えるもの）

・

取付間隔　※ 標準仕様書13.5.2による　・

見金物　材質　※ 標準仕様書13.5.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）

・

形状　※ 市販品

取付間隔　※ 標準仕様書13.5.2による　・

多雪地域　・適用する　・適用しない

防雨材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・

鋼管製といの防錆塗装　※ 標準仕様書表13.5.4による　・

ルーフドレンの材種その他

種別		呼び				施工箇所
・ろく屋根用たて形1型	※ねじ込み式	・80	・100	・125	・150	
・ろく屋根用横形1型	※ねじ込み式	・50	・100	・125	・150	
・バルコニー用	・ねじ込み式	・50	・80	・100		
	・差し込み式	・50	・75	・100		
・バルコニー	・ねじ込み式	・50	・80	・100		
	・差し込み式	・50	・75	・100		

14章　金属工事

1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.1)(表 14.2.1)

種別	色合い等	施工箇所（柱型部、窓枠、建具以外）

陽極酸化皮膜の着色方法　※ 二次電解着色　・三次電解着色

2 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2)(表14.2.2)

鉄鋼の亜鉛めっき	種別	施工箇所（手すり、ラッチ以外）
・溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
・電気亜鉛めっき	・2種	
	・D種	
	・F種	

3 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2)～(14.4.4)(表14.4.1)

特定天井　・有（仕様、位置は図示による　）　・無し

野縁等の種類

屋外　※ 25形　・19形

屋内　※ 19形　・25形

屋外の形式及び寸法

野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔　・図示　・600

周辺部の端からの間隔　・図示　・150

野縁の間隔　・図示　・225

・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合

補強方法　※ 図示　・

・天井のふところが1.0mを超える場合

補強方法　※ 図示　・

・天井下地材における脆弱性を考慮した補強

補強箇所　・図示　・

補強方法　※ 図示　・

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

屋外の有天上、ピロティ天井の工法

1項 適用区分による風圧力の（　※1　・1.15　・1.3　）倍の風圧力に対応した工法

4 屋根葺金属下地 (14.5.3)(表14.5.1)

メッキ、タンクの種類　※ 標準仕様書表14.5.1によるメッキの高さによる区分に応じた種類

・図示

・

メッキの高さが5.0mを超える場合　※ 図示　・

出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※ 標準仕様書14.5.4(5)による　・図示

○5 金属建具取付け (14.6.2)(14.6.3)(表 14.2.1)

種別	種類	形状	幅 (mm)	高さ (mm)	表面処理	
					種類	色合い等
・アルミ系	・押出し ・ロール ・プレス ・	※メッキ処理				
○ 鉄鋼				1.6	溶融亜鉛メッキ	

取付け用下地　※ 標準仕様書14.6.4による　・図示

伸縮調整目地　・設ける

施工箇所　・図示　・

・設けない

屋外の有天上、ピロティ天井の工法

1項 適用区分による風圧力の（　※1　・1.15　・1.3　）倍の風圧力に対応した工法

6 アルミニウム製窓本 (14.7.2)(14.7.3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)

幅別　・250形　・300形　・350形

表面処理

種別（　）種

色合等　・標準色（　）　・特注色（　）

建具の指定金具の工法等

1項 適用区分による風圧力の（　※1　・1.15　・1.3　）倍の風圧力に対応した工法

7 エキスパンションジョイント金物

材種	寸法(mm)	耐火性能	備考
・アルミニウム製	・60　・100	・有（　　）	
・ステンレス製	・150	・無し	

15章　左官工事

1 モルタル塗り (15.3.2)(15.3.5)

セメント　・現場調合材料　・既調合材料（　）

既調合材料　・設ける

施工箇所

形状　※ 図示　・

・設けない

※目地　・設ける

種類　※ 押し目地　・

目地側　※ 3m2間隔（最大目地間隔3m間隔）　・

・設けない

屋外モルタル塗り下地、屋内の吹放け部分等のモルタル塗りの下地モルタル塗り及び下地調整剤付塗りの接着力試験

・　・適用する　・適用しない

防水剤　品質・性能、試験方法は別表による

2 ラス張下地 (15.3.4)

ラス張下地

・二層下地通気構法

・単層下地通気構法

換気口部の防水処理　※ 公共木造建築工事標準仕様書11.4.3(2)(ｲ)　・

・窯業系ラスモルタル下地

・金属系ラスモルタル下地

・耐力壁、防火構造、準防火構造等の指定

ラスの材料

種類及び記号　：

単位面積当たりの質量　：

ラスモルタルの材料

ラス目による区分　※ ＩＩ　・

山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分　・LS4(建築基準法に基づく耐力壁)

・

スタッドの形状及び寸法　：

金属系ラスモルタル下地で地震基準法に基づく耐力壁のラスモルタルの施工　：

3 せっこうボード、その他のボード下地 (15.2.5)

せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ

種類　・GB-R　・GB-L　・

厚さ(mm)　：

木質系ボード板の種類及び厚さ

種類　・

厚さ(mm)　：

4 こまい下地 (15.2.6)

建築基準法に基づく耐力壁の指定　・あり　・なし

5 木ずり下地 (15.2.7)

木ずり用小幅板の種類　※ 杉(芯抜き材)　・

6 仕上塗材仕上げ (15.6.2)

内部仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆

仕上塗材の種類

・薄付仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの種類	工法	有機溶剤	防火材料
・			・適用する ・適用しない	
・			・適用する ・適用しない	

・厚付仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの種類	工法	有機溶剤	防火材料
・			・適用する ・適用しない	
・			・適用する ・適用しない	

・複層仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの種類	工法	上塗材の種類	耐候形	防火材料
・			種別 ・ 外観 ・ 種類 ・	・耐候型 ・1種 ・耐候型 ・2種 ・耐候型 ・2種	
・					

・軽量骨材仕上塗材

種類(呼び名)	防火材料
・	
・	
・	

7 マスチック塗付塗り (15.7.2)

種別　・1種　・B種

8 ロックウール吹付け (15.12.2)(15.12.3)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・

仕上げ材料厚さ(mm)　・図示　・25　・

9 しっくい塗り (15.10.2)(15.10.3)(15.10.4)

しっくい　・既調合材料

色しっくい　・適用する　・適用しない

・現場調合材料

下地　・せっこうボード　・せっこうラスボード　・モルタル塗り　・木ずり

・こまい土壁塗り　・下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合

令和7年度　伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	建築工事特記仕様書(5)		
縮　尺	―	図面番号	特記―05
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
静岡県道路公社			

10 こまい盛り (15.11.2)～(15.11.5)(15.11.7)(表11.5)
のり ・土留めのり
塩 つのまた ・ふのり ・ぎんなんそう ・鉄東面筋 ・
・帯筋のり
・つのまた ※ ふのり ・こんにゃくのり ・にかわ ・合成樹脂系糊剤
色土 ・土物仕上げに用いる色土の種類(
・大理仕上げに用いる色土の種類(
色砂の種類 ・天然砂と岩石の砂砂 ・人工的に着色、整油したもの
下塗りの調合 ※ 標準仕様書第15.11.2 ・
目地 ※ 標準仕様書第15.11.2による
・暗渠基準値に基づく圧力値の指定がある場合(
)
・
こまい盛の工種 ※ A種 ・B種
こまい盛塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・土物仕上げ工法
・水ごね土物工法 ・水ごね土物工法 ・のりさし土物工法 ・のりごね土物工法
・砂盛仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
こまい盛塗りの上塗りとする大理仕上げの工法の種類
・大理大理仕上げ工法 ・大理みがき仕上げ工法
ふきつくり
・図示

16章 造具工事

1 防火戸 (16.1.3)
・造具表による ・

2 見本の製作等 (16.1.4)
造具見本の製作 ・行う
造具符号 ( )
・行わない
造具見本の目的等 ・
特殊な造具の保護 ・行う
造具符号 ( )
・行わない

3 防犯建物部品 (16.1.6)
・適用する
・造具表による
・適用しない

○4 アルミニウム製造具 (16.2.2)(16.2.4)(16.2.5)(表16.2.1)(表16.2.1)(表16.2.2)
性能値等
耐風圧性の等級 ・
造具符号 ○ 造具表による ・
気密性の等級 ・
造具符号 ○ 造具表による ・
水密性の等級 ・
造具符号 ○ 造具表による ・
外部に面する造具の種別 ○ A種
造具符号 ○ 造具表による ・
・B種
造具符号 ・造具表による ・
・C種
造具符号 ・造具表による ・
・D種
造具符号 ・造具表による ・
・E種
枠見込寸法 ○ 造具表による ・
防音ドア、防音サッシ
遮音性の等級 ・
造具符号 ・造具表による ・
断熱ドア、断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ・
造具符号 ・造具表による ・
材料
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI
ステンレス鋼のくっずりの仕上げ ※ BL
形状および仕上げ
※面処理
外部に面する造具
電解 ・EB-1 ・EB-2 (表16.2.1)
着色 ・銅黒色 ・特注色
屋内の造具
電解 ・EC-1 ・EC-2 (表16.2.1)
着色 ・銅黒色 ・特注色
雨露水の処理方法 ・水抜き式 ・排水式
工法
水切り、ぜんぎ板 ※ 図示
木下地の場合の内付け家具 ・適用しない ・適用する

4 網戸等 (16.2.7)
種類	材質	網目	網目
・防虫網	※ 合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※ 0.25mm以上 ・	・16メッシュ程度
・防鳥網	ステンレス(SUS304)製	1.5mm	網目寸法 25mm

5 建具金具 (16.2.8)(16.2.9)～(16.3.8)(表16.3.1)
性能値等
耐風圧性の等級 ・
気密性の等級 ・
水密性の等級 ・
外部に面する造具の種別 ・A種
造具符号 ・造具表による ・
・B種
造具符号 ・造具表による ・
・C種
造具符号 ・造具表による ・
・D種
造具符号 ・造具表による ・
・E種
防音ドア、防音サッシ
遮音性の等級 T-1 T-2
造具符号 ・造具表による ・
断熱ドア、断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ・H-4 ・H-5 ・H-6
造具符号 ・造具表による ・
外部に面する造具の自動閉鎖等級の等級 ・
枠の見込寸法 ・造具表による ・

材料
ガラス ※ 強度ガラス(強合せは造具表による)
ステンレス鋼くっずり ※ BL
形状および仕上げ
鋼板類の厚さ ※ 標準仕様書第14.4.2による
・
使用箇所 ・
鋼製建具鋼製造具の形式及び寸法 ※ 造具表による

6 鋼製造具 (16.2.10)(16.4.2)～(16.4.4)(表16.4.2)
性能値等
耐風圧性の等級 ・適用する
造具符号 ・造具表による
・適用しない
外部に面する鋼製造具の耐風圧性
耐風圧性の等級 ・
防音ドア、防音サッシ
遮音性の等級 ・
造具符号 ・造具表による ・
断熱ドア、断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ・
造具符号 ・造具表による ・
耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
材料
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI
ステンレス鋼のくっずりの仕上げ ※ BL
形状および仕上げ
鋼板類の厚さ
※ 標準仕様書第14.4.2による
・
使用箇所 ・
補強型鋼製造具の形式及び寸法 ※ 造具表による

7 鋼製板金造具 (16.2.12)(16.5.2)～(16.5.4)
性能値等
耐風圧性の等級 ・適用する
造具符号 ・造具表による
・適用しない
防音ドア、防音サッシ
遮音性の等級 ・
造具符号 ・造具表による ・
断熱ドア、断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ・
造具符号 ・造具表による ・
耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
材料
鋼板 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・ポリ鋼板 ・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板 ・SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI ・
合合わせ、鋼小口包み板の位置 ※ 鋼板
ステンレス鋼のくっずりの仕上げ ※ BL
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ(mm) ※ 標準仕様書第15.5.1による
・
使用箇所 ・

8 ステンレス製造具 (16.2.13)(16.4.2)(16.5.2)～(16.6.5)
性能値等
耐風圧性の等級 ・適用する
造具符号 ・造具表による
・適用しない
外部に面する鋼製造具の耐風圧性
耐風圧性の等級 ・
防音ドア、防音サッシ
遮音性の等級 ・
造具符号 ・造具表による ・
断熱ドア、断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ・
造具符号 ・造具表による ・
耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
材料
ステンレス鋼板 ・SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI ・
ステンレス鋼のくっずりの仕上げ ※ BL
形状及び仕上げ
表面仕上げ ※ BL ・鏡面仕上げ
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・角出し曲げ

9 木製造具 (16.7.2)～(16.7.4)
造具材の加工、組立時の含水率 ※ A種 ・
建築内部の木製造具に使用する表面仕上げ(吸湿剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆
・プラットフォーム
表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※ 標準仕様書16.7.3(2)(ロ(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	表面材	備考
・普通合板[1]	表面の制限 ・ 樹脂の品質 ※ 広葉樹1号 塗膜の性能 ・1級 ・2級	
・天然木 化粧合板[2]	樹種名 ・ 塗膜の性能 ・1級 ・2級	
・特殊加工化粧合板[3]	化粧加工の方法 ・プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 塗膜の性能 ・1級 ・2級	
・MDF[4]		

表面材の厚さ ※ 表16.7.6による ・
ドアの開き勝手かまちのいんろう付きの適用 ・適用する ・適用しない
・かまち材
かまち断面 ・
鏡板断面 ・
見込み寸法 ※ 30mm ・造具表による
・ルーバー
羽板の種類 ・I種 ・II種
上張り(押入等の底板以外) ・島の子 ・厚島の子又はビニル紙張成
縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁(塗油) ・生地縁(ウレタンクリヤー塗装)
見込み寸法 ※ 19.5mm ・造具表による ・
・縁張り戸子
見込み寸法 ※ 30mm ・造具表による ・
・くっずりの材料 ・造具表による ・

○10 造具用金物 (16.8.2)(16.8.3)(表16.8.1)～(表16.8.5)
金物の種類及び見え掛り部の材質等
※ 標準仕様書第16.8.2により適用は造具表による ・
金属製造具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書第16.8.2による ○ 造具表による
鋼製造具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書第16.8.3による ・造具表による
木製造具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書第16.8.4による ・造具表による
木製造具に使用する戸車及びレール ※ 標準仕様書第16.8.5による ・造具表による
掛け金及びシャンマット、押縁類、ストッパの取付位置 ○ 造具表による ・
ドアチェック類の耐久性(品質・性能、試験方法は別表による)
ドアチェック類(品質・性能、試験方法は別表による)

○11 錠 (16.8.4)
マスターキー ・制作する
・ダブルシリンダー ・コンスタントシリンダー ・逆マスター
○ 制作しない
その他の鍵の制作本数 ※ 各種3本1組(番号札付き)
鍵箱 ※ 可(鍵箱の種類) ・無

12 自動ドア開閉装置 (16.9.2)(16.9.3)
戸の開閉方式 ・造具表による ・
引き戸用開閉装置
性能値 ※ 標準仕様書第16.9.2による
防犯 ・適用する ・適用しない
・以下による
開閉・開閉方式 :
開閉圧 :
温度上昇 :
耐久性(サイクル) :
防犯 :
電源 :
車椅子使用者用便所出入口引き戸用開閉装置
性能値 ※ 標準仕様書第16.9.2による
防犯 ・適用する ・適用しない
・以下による
開閉圧 :
温度上昇 :
耐久性(サイクル) :
防犯 :
電源 :
引き戸用自動出入装置
性能値 ※ 標準仕様書第16.9.3による
防犯 ・適用する ・適用しない
・以下による
開閉圧 :
防犯 :
電源 :
引き戸用自動出入装置の種類(標準仕様書第16.9.4)
・造具表による
ドアチェックの種類 ・個別式ドアチェック ・手動式ドアチェック
車椅子使用者用便所スイッチの種類 ・大型押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ
凍結防止措置 ・行う ・行わない

13 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3)(表16.10.1)
性能値等 ※ 標準仕様書第16.10.3による
・以下による
手動開き力 :
手動閉じ力 :
開閉速度の調整 :
制動区間 :
開閉動作 :
開閉動作 :
開閉年数 :

14 重量シャッター (16.11.2)(16.11.3)
シャッターの種類 ・管理用シャッター ・外壁用シャッター ・屋内用防火シャッター ・防犯シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度(pa) ・
開閉方式の種類 ※ 電動式(手動併用) ・手動式
安全装置
電動式シャッターの急降下防止装置、急降下停止装置
設置箇所 ・造具表による
電動式シャッターの障害物感知装置 ・設ける
設置箇所 ・造具表による
・設けない
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの自動閉止装置 ・設ける
設置箇所 ・造具表による
・設けない
管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類 ・JIS G 3141(冷間圧延鋼板及び鋼帯)
・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量 ※ Z12または12
ガイドレール、まぐさ、鋼部かまに用いる鋼板及び鋼部カバー、開閉かりに用いるスイッチボックス用の鋼の材質
ステンレス鋼板 SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI ・

15 網重シャッター (16.12.2)(16.12.3)(16.12.4)
開閉方式の種類 ・手動式 ・電動式(手動併用)
耐風圧強度(pa)
安全装置
電動シャッターの開閉時の障害物感知装置
設置箇所 ・造具表による
スラットの材質の種類 ・JIS G 3313(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量 ※ Z06または#06 ・
・JIS G 3322(溶融亜鉛55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量 ※ AZ90 ・
スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

16 オーバーヘッドドア (16.13.2)(16.13.3)
材料の種類による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※ ストールド ・フラッシュタイプ ・ガラス(ガラスタイプ)	・60 ・75 ・100 ・125	※ ウインチ式 ・チェーン式 ・電動式	※ ストレート形 ・カーブド形 ・ハイリフト形 ・オーバーヘッド形	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式ローヘッドドアの障害物感知装置 ※ 設ける
設置箇所 ・造具表による
・設けない

17 ガラス (9.7)(16.14.2)～(16.14.4)(図16.14.1)
・フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類 ※ 造具表による
・型板ガラスの厚さによる種類 ※ 造具表による
・網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※ 造具表による ・
・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
※ 造具表による ・
耐衝撃性はく離特性並びにショットバッグ衝撃特性による種類
・I類 ・II-1類 ・II-2類 ・III類
・強化ガラス
形状による種類、材料強化ガラスの種類による名称 ※ 造具表による ・
破片の状態及びショットバッグ衝撃特性による種類 ・I類 ・II類
・熱線吸収ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類 ※ 造具表による ・
性能による種類 ・1種 ・2種
・複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※ 造具表による ・
断熱性による区分 ・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6
日射吸収性、日射遮蔽性による区分 ・G ・S
吸着気体の種類 ・空気 ・アルゴン
・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※ 造具表による ・
日射遮蔽性による区分 ・1種 ・2種 ・3種
耐久性による区分(日射遮蔽性による区分が2種の場合) ・A種 ・B種
・強強化ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※ 造具表による ・

ガラスの厚さ及び種の大きさ (表16.14.2)(表16.7.1)

造具の種別	ガラス留め材	ガラスの大きさ(mm)
・ドライエッチング	・シーリング材 ・グレイジングディンキング ・	※ 造具の製造所の仕様による ・
鋼製玉ガ鋼製軽量	・シーリング材 ・	※ 造具の製造所の仕様による ・
ガラス製	・シーリング材 ・	※ 造具の製造所の仕様による ・
樹脂製	・グレイジングディンキング ・	※ 造具の製造所の仕様による ・

耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

18 ガラスブロック (16.14.5)

標準寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	目地幅(mm)	伸縮調整目地位置(mm)	特に指定
・180×180	・80 ・				
・200×200	・80 ・				

補強金属材及び補強材 ※ 図示
・力骨
材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)
寸法 ※ 径5.5mm
形状 ※ ひし形状網目及び平面
化粧目地材の色 ・白 ・グレー
シーリング材の種類 ・SR-1 ・PS-1
金属製化粧カバー
材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製
寸法 ※ 図示 ・
形状 ※ 図示 ・
木下地の場合のアンカー等の取り付け間隔 ・図示
目地部の強力骨の納まり ※ ガラスブロック製造所の仕様による ・図示 ・
工法 ※ 適用区分による風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法

19 ガラス用フィルム

種類	記号 内貼り用	記号 外貼り用	性能等
・日射調整フィルム	・SC-1	・SC-2	日射遮蔽性能による区分 ・A ・B ・C ・D ・E
・紫外線遮断フィルム	・UV		紫外線率による区分 ・A ・B ・C ・D
・飛散防止用ガラス用飛散防止フィルム	・SP-1	・SP-2	
・防犯強化(破壊対応)ガラス用飛散防止フィルム	・SP-3	・SP-3	
・ドライエッチング用フィルム	・DF		

基準 JIS A 5759による。

17章 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等 (17.1.3)
取付方法に応じ分類
・躯体方式 ・柱、梁方式 ・方位方式 ・パントル方式 ・
性能

水密性	気密性	遮音性	耐熱性	耐火性	耐風圧強度(℃)
				・30分 ・1時間	・60 ・70 ・80

耐風圧性 1種 適用区分による風圧力(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧に対応した工法
主要部材の耐風圧性能(ひずみを除く)

応力度(N/mm²)	耐風圧性能
6N/mm²以下	・たわみ量が±(1/150)×L(ロッド間隔)量 20mm 以下であること ・
※ 考慮による	・

耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
性能の検査方法及び判定方法
※ 性能の検査及び判定方法が検査できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

令和7年度 伊豆中央道・修善寺道路
ETC整備に伴う料金所改修工事

図面の種類	建築工事特記仕様書(6)		
縮 尺	—	図面番号	特記—06
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			

静岡県道路公社

2 メタルカーテンウォール (17.2.2)(17.2.3)(17.2.5)(17.2.6)

金属系材料の種類 ・アルミニウム材 ・鋼材 ・ステンレス鋼材

シーリング材の種類(目地等)

種類及び寸法等 ※ 図示

ガラスの取付け材料 ・シーリング

種類 ・SR-1 ・SR-1

・押縁用ガスケット

形状・寸法等 ※ 図示

断熱材(G)

種類及び種類 ※ 図示

形状及び仕上げ

製品の寸法許容差 ※ 標準仕様書第17.2.1による

見え掛かり部の仕上げ

(アルミニウム材の場合)

標準等 ※ 標準仕様書16.2.3による

色調 ・ (標準仕様書14.2.1)

彩色 ・ 着色色 ・ 特注色

(鋼材及びステンレス鋼材の場合)

・

ガラス縁の寸法、形状 ※ カーテンウォールの製造所の仕様 ・

取付け

他部材付け金物の取付け位置の寸法許容差

鉛直方向 ※ ±10mm

水平方向 ※ ±10mm ・

カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差

目地の幅 ※ ±3mm ・

目地の心の通り ※ 0～2mm ・

目地の両面の段差 ※ 0～2mm ・

各階の基準墨から各部位までの距離 ※ ±2mm ・

耐火処理

適用部位、材料等 ※ 図示

ガラスの取付け材料

ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法 ※ 4辺支持

3 PCカーテンウォール (17.3.2)～(17.3.6)(旧17.3.1)(旧17.3.2)

材料

コンクリート

種類 ・普通コンクリート ・軽量コンクリート1種 ・

品質

設計基準強度Fc ※ 30N/mm2 ・

スランプ ※ 12cm

気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m3を超え2.4t/m3以下

・軽量コンクリートの場合 1.8t/m3～2.1t/m3

・

単位水量の最大値 ※ 185kg/m3 ・

鉄筋

種類の記号 ※ SD295A

被覆厚(鉄筋)

位 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0

個別寸法 ・

シーリング材の種類(目地等)

種類及び寸法等 ※ 図示

ガラスの取付け材料

・裏当ガスケット

形状・寸法等 ・図示

耐火処理

適用部位、材料等 ※ 図示

断熱材(G)

種類 ・

先付け材の材料

・表面仕上げ

・セラミックタイル ・石材

・張員枠

・コンクリート用ガラスブロック

形状及び仕上げ

製品の見え掛かり部の寸法許容差

辺長

※ ±3mm

対角線長の差

※ 0～6mm

反り

※ ±2mm

開口部内法寸法

※ ±2mm

ねじれ、反り

※ 0～5mm

曲がり

※ 0～2mm

面の段差

※ 0～3mm

先付け金物の位置

※ 0～5mm

PCカーテンウォールの仕上げ

・

構造ガスケットを用いる場合のガラス縁のすき間及び寸法許容差(6mm)

※ 図示

製作

PC版の記号 ※ 図示

取付け

他部材付け金物の取付けの寸法許容差

鉛直方向 ※ ±10mm

水平方向 ※ ±25mm

カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差

目地の幅 ※ ±5mm

目地の心の通り ※ 0～3mm

目地両面の段差 ※ 0～4mm

各階の基準墨から各部位までの距離 ※ ±6mm

ガラスの取付け方法

・ガラスの取付けが構造用ガスケットで直接ガラスを支持する場合は排水機能の設置及びガラスの制振処理の強化を行う

18章 塗装工事

1 材料 (18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※ F☆☆☆☆

防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする

・次の箇所を除き防火材料とする

箇所 ・

2 素地ごしらえ (18.2.2)～(18.2.9)

下地種等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	塗 a種 ・ b種
	透明塗料塗りの場合	塗 b種 ・ A種
鉄鋼面		塗 b種 ・ A種 ・ C種
	EP以外	塗 b種 ・ A種 ・ B種
亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種
ALCパネル及びせっこうプラスター面		塗 b種 ・ A種
コンクリート面(EP以外)及びALCパネル面		塗 b種 ・ A種
押出成形セメント板面		塗 b種 ・ A種
コンクリート面(EP面)		・ b種 塗 A種
せっこうボード面及び	目地：目地処理工法	塗 A種 ・ b種
その他ボード類	目地：継目処理工法以外	塗 B種 ・ A種

3 鉄部の塗料塗り (18.3.2)(18.3.3)

下地種等	塗料の種別	鉄部の塗料の種別	鉄部の塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛かり：A種 見え隠れ：B種
	EP	C種及びD種	第18.3.4
	EP-G	塗 B種 ・ A種	見え掛かり：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	塗 A種 ・ B種	無機質系等：A種 上記以外：B種
	EP	B種	第18.3.6
	EP-G	C種及びD種	無機質系等：A種 上記以外：B種

4 塗装 (18.4.1)～(18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料[G]
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	塗 A種 ・ B種	—	—
	木部屋内	塗 B種 ・ A種	—	—
	鉄鋼面	塗 B種 ・ A種	—	・適用する
	亜鉛めっき鋼面	—	—	・適用する
・内装用水性塗料塗り(AEP)		塗 B種 ・ A種	—	—
・多彩模様塗料塗り水分散型塗料塗り(MLP)		塗 B種 ・ A種	—	—
○ 弱溶剤性塗料塗り(EP)	鉄鋼面	—	上塗塗料の等級 ・	・適用する
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗塗料の等級 ・	—
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・A種 ・B種 ・C種	—	—
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	コンクリート面 モルタル面 プラスター面 せっこうボード面 その他のボード類等	塗 B種 ・ A種	—	—
	屋内の鉄鋼面 鉄鋼面 亜鉛めっき面	塗 B種 ・ A種	—	—
・合成樹脂エマルションペイント塗り(AE-W)		塗 B種 ・ A種	—	—
・外装用弱溶剤塗り(EL)		塗 B種 ・ A種	—	—
・ポリウレタンペイント塗り		・ビヒクルタイプ塗り ・ポリウレタン塗り(GS)	—	—
・木材表面塗料塗り(WP)		塗 B種 ・ A種	—	—

高日射反射率塗料[G]を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根部の金属面とする。

アクリルラッカー塗装類の工場塗装の適用 ・適用しない

・適用する

着色剤 ・顔料系着色剤 ・染料系着色剤 ・油性染色着色剤

ウレタン樹脂ワニス塗装の工場塗装の着色の適用 ・適用する ・適用しない

・

・防錆用塗料塗り

材質 水性アクリル系樹脂塗料

※ 標準色 ・

仕上塗剤 コーティング(ローラー刷毛塗り)

塗布量 主要素面積とし、塗布量は0.25kg/m2以上とする。

金属製品表面に塗装する場合の塗料は[JIS K 5675]に適合する塗材とする。塗装、工場及び塗付量は図示による。

19章 内装工事

○1 壁張材 (19.2.2)(旧19.2.1)(旧19.2.2)

ビニル系シート、ビニル系タイル、コルク系タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別 ・図示

2 下地の工法 (19.2.3)

標準仕様書19.2.3(1)(ア)～(ク)以外の下地の工法 ・図示

○3 ビニル系シート[G] (19.2.2)(19.2.3)

種類の記号	名称	厚さ(mm)	備考
※ PVC(塩ビ系シート)	○ 表面 ・カーペット調 ・無地	※ 2.0 ・	

接着剤の種類 ※ 熱溶着工法

4 ビニル系タイル[G] (19.2.2)

種類の記号	名称	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考
・ VT(単層ビニル系タイル)	・無地	・300×300	※ 2.0	
・ FT(複層ビニル系タイル)	・斑模	・450×450	・2.5	
※ ST(コンポジションビニル系タイル)		・500×500	・3.0	
・ PCA(塩ビ系タイル)				
・ PTA(厚型塩ビ系タイル)				

4 特殊張仕上げ (19.2.3)

・非電磁波遮蔽シート

種類 ・

性能 ・

厚さ(mm) ・

・有電磁波遮蔽タイル

種類 ・

性能 ・

寸法 ・

厚さ(mm) ・

・視覚障害者用タイル

視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は[JIS T 9251]による

種類 ・

形状 ・

・高熱蓄熱性床シート

種類 ・

厚さ(mm) ・

・防滑性床シート

種類 ・

厚さ(mm) ・

・防滑性床タイル

種類 ・

寸法 ・

厚さ(mm) ・

6 ビニル幅木 (19.2.2)

種類 ・樹脂 ・軟質

高さ(mm) ※ 60 ・ 75 ・ 100

厚さ(mm) ※ 1.5以上 ・

7 ゴム床タイル (19.2.2)

種別 ・単層品 ・複層品

色彩 ・

厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0

寸法(mm) ・

8 カーペット敷き (19.3.2)(19.3.3)(旧19.3.1)(旧19.3.2)

・織じゅうたん

織り方	パイル形状
・ タフトカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンスターカーペット	・ タフトパイル ・ カーブドパイル ・ タフト、カーブ併用

色調 ※ 標準の色合い・濃淡 ・

パイル糸の種類等 ※ 無地の織りじゅうたんの種別

・A種 ・B種 ・C種

・

帯電性 ・適用する ・適用しない

織りじゅうたんの接着方法 ※ ヒートボンド工法 ・つーざり敷い

下敷き材 ※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 9mm

・

・タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・タフトパイル	・5～7 ・	・全面接着工法	・適用する	
・カーブドパイル	・4～6 ・	・グリッパー工法	・適用しない	
・タフト、カーブ併用	・			

下敷き材(グリッパー工法の場合) ※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ8mm

・

タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

・タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考
※ カーブドパイル	※ 第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・タフトパイル	・第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・タフト、カーブ併用	・第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

タイルカーペットの敷き方

平張 ※ 市松敷き ・ 縦張し ・

階段部分 ※ 側面貼し ・ 水平敷き ・

見切り、押え金物

材質 ：

種類 ：

形状等 ※ 図示

8 合成樹脂塗床 (19.4.2)(19.4.3)(旧19.4.4)(旧19.4.5)～(旧19.4.8)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・平坦型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・平坦型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・弾性流し展べ工法 ・平坦流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・平坦型塗床材 塗床材のホルムアルデヒド放散量			※ 平滑仕上げ ※ F☆☆☆☆

9 フローリング張り (19.5.2)～(19.5.6)(旧19.5.1)～(旧19.5.5)

フローリングのホルムアルデヒド放散量等 ※ 標準仕様書19.5.2(2)による ・

各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

・単層フローリング(フローリングボード1号)

工法 ・釘留め工法

・板目張り ・直張り

・接着工法

釘種 ※ なし ・

釘仕材の種類 ・適用する ・適用しない

・単層フローリング(フローリングブロック1号)

釘種 ※ なし ・

厚さ ・

大きさ ・

釘仕材の種類 ・適用する ・適用しない

・複合フローリング

工法 ・釘留め工法

・板目張り ・直張り

・接着工法

釘種 ※ なし ・

種別 ・A種 ・B種 ・C種

釘仕材の種類 ・適用する ・適用しない

接着工法の場合の底部緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート ・

10 畳敷き (19.6.2)(旧19.6.1)

種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種(畳床KY- ・I ・II ・III ・E ・N)

下地の種類 ・標準仕様書第12.6.1による床組み

・ ずりスリングトム床下地(ハンマン[G])

・

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散がきわめて少ないが材料を使用したものとする。

11 せっこうボードその他ボード及び合板張り (19.7.2)(19.7.3)(旧19.7.1)

種類等	厚さ(mm)、規格等
木毛セメント板[G]	
・ 木毛セメント板 ・ 硬質(HM) ・ 中質(MM) ・ 普通(MM)	※ 図示 ・ 15 ・ 20 ・ 25
・ 木片セメント板 ・ 硬質(HP) ・ 普通(HP)	※ 図示 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 25 ・ 30
繊維強化セメント板	
・ けい酸カルシウム板(タイプ2) 普通ボード0.8PEC	※ 図示 ・ 6 ・ 8
火山性ガラス質複層板	
・ 火山性ガラス質複層板 種類 ※ 図示	※ 図示
石膏ボード[G]	
・ ミディアムデンシティファイバーボード(MDF)	※ 図示 ・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12
・ ハードボード	※ 図示 ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7
・ スタンダードボード(無地種) ・ 無地ハードボード ・ 水硬膠板(GM) ・ 硬質板(HS) ・ 内装用化粧ハードボード(DH)	
・ テンパードボード(無地種) ・ 無地ハードボード ・ 水硬膠板(GM) ・ 硬質板(HS) ・ 外装用化粧ハードボード(DH)	
・ インシュレーションボード ・ A種インシュレーションボード(I-IIB) ・ 天井仕上げ材 ・ 内装仕上げ材	※ 図示 ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18
パーティクルボード[G]	
・ 単板張りパーティクルボード ・ 無垢薄板(VK) ・ 硬質板(VS)	※ 図示 ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18
・ 化粧パーティクルボード ・ 単板ストーンペイン(DV) ・ プラスティックオーバーレイ(DO) ・ 塗装(DC)	※ 図示 ・ 10(最低) ・ 12(最低)
吸音材料	
・ ロックウール化粧吸音板(RK) ・ フラットタイプ ・ 穴あきタイプ	・ 厚不問 ・ 12(不問) ・ 15(不問) ・ 18(不問)
・ ロックウール吸音ボード(1号)	※ 図示 ・ 25
・ グラスウール吸音ボード(32K)	・ 25(ガラスクロス張り)
せっこうボード	
・ せっこうボード(GB-R)	※ 12.5(不燃) ・ 15(不燃)
・ ラミネートせっこうボード(GB-R)	・ 12.5 ; ・ 不燃 ・ 厚不問
・ 強化石膏ボード(GB-F)	・ 12.5(不燃) ・ 15(不燃)
・ 化粧せっこうボード(GB-D)	・ 本目 12.6(不燃) 幅44mm程度 種類 ： ・ 柾目 ・ 板目 表面下地材有り ・ ドローイング板張 9.5(厚不燃)
・ せっこうラスボード(GB-L)	・ 9.5
・ 不燃練混せっこうボード(GB-NC) ・ 化粧無し(下地張り用) ・ 化粧有り(ドローイング種類)	・ 9.5(不燃)
合板類	
・ 普通合板[G] 表面の加工名 ： 板厚品質 ： 防虫処理 ・行う ・行わない	※ 図示 ・
・ 天然木化粧合板[G] 化粧版の種類名 ： 防虫処理 ・行う ・行わない	※ 図示 ・
・ 特殊加工化粧合板[G] 化粧加工の方法 ・ ローレイ ・ プリント ・ 塗装 表面処理 ・ 防虫処理 ・行う ・行わない	※ 図示 ・

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の張り張りを行う場合 ※ 図示

合板類の釘付け ・A種 ・B種

せっこうボードの目地工法等 ※ 仕上度による

釘付け工法及び糊張し工法のタッカの種類 ・ペンタスクッド ・スクエアタッド

天井又は壁に使用する合板は、関係法令により求められる場合のみ、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

12 畳敷張り (19.8.2)(19.8.3)

ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ・

施工箇所	壁紙の種類								防火種別	備考
	紙	繊維	塩ビ	ビニルタイル	発泡壁	その他				
壁・天井	・	・	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	

ボード、プラスター類の表面ごしらえ ※ B種 ・A種

コンクリート面の表面ごしらえ ※ B種 ・A種

せっこうボード類の表面ごしらえ ※ B種 ・A種

令和7年度 伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	建築工事特記仕様書(7)		
縮 尺	―	図面番号	特記―07
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
静岡県道路公社			

20章　ユニット及びその他工事

1　フリーアクセスフロア　(20.1.2)

電工組別	工法	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐荷性能	所定荷重 (N)	表面仕上げ	備考
	・置敷式 ・支柱 調整式	・500×500		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・静電防止用ﾗﾐﾈｰﾄ ・ﾌｨﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	

寸法精度
※ 個別仕様書20.2.2(2)(ｱ)～(ｴ)による　－
・ 以下による
ﾊﾟﾈﾙ長さの寸法精度　：
ﾊﾟﾈﾙの平面形状(角度)の寸法精度　：
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの高さの寸法精度　：
非電磁波遮蔽性能　・所要値(N)≧0.5以上　・所要値(N)≧1.2以上
静電容量性能　漏えい抵抗(Ω)≧1×10^6Ω
(品質・性能、試験方法は別表による)

2　可動間仕切　(20.2.3)

構造耐式による種類	構造躯体の種類 ｺﾝｸﾘｰﾄ	ﾒﾀﾙ	ﾊﾟﾈﾙ面仕上げ	遮音性 (dB/500Hz)	防火性能
・ｽﾀｯﾄﾞ式(小屋組) ・ｽﾀｯﾄﾞ式(鉄骨) ・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式 ・ﾊﾟﾈﾙ式			・ﾌﾘｰ組立地付又は ﾌﾘﾎﾟﾈﾙ組立地付 ・壁紙張り	・0　・22 ・29　・36 ・36	・不燃

ﾊﾟﾈﾙ内に取付ける建具　・あり
※ 図示
・なし
ﾊﾟﾈﾙ内に取り付ける金具のﾌｯｸ・ﾊﾝｶﾞｰ、丁番、蝶番、上げ底とは、標準仕様書16章(建具)の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上げ材を壁紙張りとする場合の品質、施工は標準仕様書19章による。
ﾊﾟﾈﾙ材料のホルﾏﾘﾝﾄﾞﾊﾞﾈﾙ出量　※ F☆☆☆☆

3　移動間仕切　(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	ﾊﾟﾈﾙ圧着装置の操作方法	遮音さ (mm)	ﾊﾟﾈﾙ面材 材質	ﾊﾟﾈﾙ面材 仕上げ	遮音性 (dB/500Hz)
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ ・ﾍﾞﾙﾄ式 ・		・鋼板 ・	・塗料塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

ﾊﾟﾈﾙ面仕上げ材の種類、厚さは標準仕様書19章による。
ﾊﾟﾈﾙｰﾙの設計下地の補強
※ 取付け金具部の躯体上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・図示
ﾊﾟﾈﾙ枠に取り付ける器具
※ ﾌｯｸに加える荷重の値以上の荷重に耐えられるもの
・
ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ及びﾌｯｸ
※ ﾊﾟﾈﾙ重量の半分の荷重を、ﾊﾟﾈﾙ1枚に使用するﾌｯｸ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
・
(品質・性能は別表による)

4　トイレパーテーション　(20.2.5)

表面材の材質	脚部 種類	脚部 材質	ﾄﾞｱﾊﾝｶﾞｰ 材質
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂不化粧板 ・ｶﾞﾗｽｽﾁﾚﾝ樹脂不化粧板 ・	・幅木ﾀｲﾌﾟ ・		・製造所の仕様による ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製

(品質・性能、試験方法は別表による)

○5　手摺り　○図示　(20.2.6)

材料の種類及び仕上げ
・ SUS304
表面処理　※ HL仕上げ　・
・ 鋼製　表面処理　錆止塗装めっき
表面処理4(標準仕様書第14.2.2)による種別)　・
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ
表面処理4(標準仕様書第14.2.2)による種別)　・
合金等　・銀白色　：　・特注色
手すりの取り付け

材種	表面仕上げ	直径(mm)	形状寸法	備考
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂 材種　：	・ﾌﾘﾌﾟﾗｯｸｰ ・	・35程度 ・45程度 ・		
・ﾋﾞﾆﾙ被覆ﾍﾝﾄﾞﾚｰﾙ		・35程度 ・45程度 ・		

○6　階段滑り止め　○図示　(20.2.7)

材種　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・黄銅製埋め込み形　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製埋め込み形　・
形状　※ ﾀｲﾙ張り仕様の材質：ｺﾞﾑ又は合成樹脂)　・ﾀｲﾙ製
踏面の形状　・フラットｽﾀｲﾙ　・フラットｽﾀｲﾙなし
寸法(幅)　・35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法　※ 接着工法　・埋め込み工法

7　黒板及びホワイトボード　(20.2.9)

・ 黒板
区分　※ 造り付け
種類　・鋼製黒板　・ほうろう黒板　・
色　※ 緑　・
・ ホワイトボード

8　鏡　(20.2.10)

取付箇所　：
寸法(mm)　・図示　・
厚さ(mm)　※ 5　・

9　柱型　(20.2.11)

衝突防止表示
・ 設置する
設置箇所　※ 図示　・
形状・寸法　・30φ　・
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・
・ 設置しない

部屋番号、非常用進入口等の表示
※ 消防法に適合する市販品
品名、ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾑ、塗色指定の形状、寸法、材質、色、書体、同期等の種別、取付け形式等
(室内用表示を付ける場合による)
※ 図示

○10　タラップ　(20.2.12)

材質及び仕上げ　○ SUS304
スリップ止め加工　※ あり　・なし
・ 鋼製　表面処理　錆止塗装めっき
※ 個別仕様書第14.2.2による種別
※ C種　・

11　階段ﾌﾟﾚｰﾄ　(20.2.13)

適用安全基準種類　・
工法　※ 鋼製ﾈｽﾄ埋め(埋め用成形ﾌｨﾆｯｼﾝｸﾞ材)　・

12　ブラインド　(20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅 (mm)	ﾌﾞｯｸｽﾗｰﾄの材質	幅・高さ・取付箇所
・横型	・電動 ・手動	― ※ ｷﾞｱ式 ・コード式 ・操作棒式	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製(白) ・	※ 25 ・	※ 樹脂 ・	別図参照
・縦型	・電動 ・手動	― ※ ﾁｪｰﾝ操作コード式 ・ﾁｪｰﾝ操作コード式	・ﾌﾗｯﾄｽﾗｯﾄ ・ﾌﾗｯﾄｽﾗｯﾄ	・80 ・100	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	※ 図示 ・

遮蔽ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞのｽﾗｯﾄの材質
・ ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ　塗料付き塗装仕上げ
・ ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ　羽目板で定める防炎性能の表示がある樹脂樹脂加工
ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ樹脂又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。

13　ロールスクリーン　(20.2.15)

操作方法	ｽｸﾘｰﾝの材質	その他の材料	幅・高さ、取付箇所	品質
・ｺﾞﾑﾛｰﾗ式 ・コード式 ・電動式	・ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂 ・合成、天然繊維類 ・木製	※ 製造所の仕様	・図示	・

14　カーテン　(20.2.16)

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・プリスひだ ・細ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾄひだ		・図示	

生地の仕様
防炎法で定める防炎性能の表示があるもの
ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。
暗幕ｶｰﾃﾝの縫幅、上部及び裾合せの重なり　※ 300mm以上　・

15　カーテンレール　(20.2.16)

材料による区分　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ又はｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の押出成型材
・ ｽﾃﾝﾚｽ製
強さによる区分　※ 10-90　・
仕上げ　※ ｱﾙﾏｲﾄ　・
形状　※ 角形　・

16　ブラインドボックス及びターンボックス

箱類の厚さ(mm)　・90x180　・120x80　・[illegible]　・150x90　・図示
材質　・ 鋼板
仕上げ　：
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　押出し型材(市販品)
塗料仕様書14.2.1による種別　・BC-1種　・BC-2種
色合い　・銀白色　：　・特注色
・ 樹脂
仕上げ　：

17　天井点検口

材種	寸法	形式	外枠	内枠
※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・	・450×450 ・600×600	・一般形 ・ ・特殊形	・室内外用 ○ 室内用 ・	・樹脂ﾌﾚｰﾑ ・ｱﾙﾐﾌﾚｰﾑ ・

(品質・性能、試験方法は別表による)

18　点検口

材種	寸法	形式		備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・鋼製	・450×450 ・600×600	・一般形 ・非開形	・室内外用 ・室内用	・鍵付き

鋼製とはﾀﾞｸﾄ、ﾌｧﾝ等のﾎｺﾘ構造にﾌﾟﾚｰﾄを溶接したものとする。
(品質・性能、試験方法は別表による)

19　鋼製ﾄﾗﾌﾟ

材種	幅(mm)	ﾀｲﾌﾟ	耐火性能	防水性能	備考
・強度 ・水平	・23 ・23	・開放(安全通型) ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内部	外部
目地材	・ﾓﾙﾀﾙ材(見え掛かり部のみ) ・	・ﾓﾙﾀﾙ材(見え掛かり部のみ) ・ﾄｰﾁｶﾗﾑ材(内外角)
目地寸法	・ﾌﾚｰﾑ幅×深さ10 ・	・ﾌﾚｰﾑ幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書第7.1章による

20　止水栓

形式　・埋込式　・物置式　・留置り式
施工箇所　・屋外

21　エキスパンションジョイント金物

躯体の構造形式の個別仕様に係る特記事項による。

22　くつふきマット

材種	形状寸法	備考
・繊維ﾍﾞｰｽﾏｯﾄ類 ・表面ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)製 ・	・ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)製 ・表面ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・	

23　流し台ユニット

材種	寸法(mm) W	D	H	備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 ｼﾝｸﾌﾟﾚｰﾄ付き 天板ｽﾃﾝﾚｽ製
・ｽﾃﾝﾚｽ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ有り 天板ｽﾃﾝﾚｽ
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	―	―	市販品 ｼﾝｸ内蔵 ・1段式　・

品質・性能　JIS A 4420 ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製品の機械的、物理的性質による。
特殊材は、JIS A 4420の8によりﾎﾞﾙﾄを試験をおこなったとき、使上の規定による。
形状　※ 図示

24　流台

材種	形式	高さ(mm)	排水方法	固定方法	備考
・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ合金製 ・	・ﾀｰﾝ式 ・同一断面式		・ﾊﾞﾙﾌﾞ式 ・ｺｰﾄﾞ式	・脚付式 ・ﾍﾞｰｽ式 ・ﾊﾞﾝﾄﾞ式	

25　流台受金物

・ ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)　・

26　流止めさく

形式	材種	仕様、内部(mm)	高さ(mm)
・上下式(ﾍﾞﾙﾄ)式	・標準品 ・ｽﾀﾞﾝﾄﾞ式	・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・	・GL+700 ・

○27　フェンス

ﾌｪﾝｽの種類　・ﾋﾞﾆﾙ被覆ﾒｯｼｭﾝﾄﾞﾌｪﾝｽ　○ 網目金属ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　・鋼管ﾌｪﾝｽ　・ｱﾙﾐﾌｪﾝｽ
高さ　○ 図示

○28　プレキャストコンクリート　(20.3.3)(20.3.4)

コンクリートの設計基準強度
※ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m3を満足する調合強度
○ 図示
配筋
※ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
○ 図示
取付け方法
※ 図示

29　間知石及びコンクリート間知ブロック積み

種別	種類	種類	背面区分	備考
・間知石	・並ごう目 ・間知目			
・コンクリート間知ブロック			・A ・B	

積み方　※ 目地入　・本積み
目地切　・図示
伸縮調整目地
材質　・図示
厚さ　・図示

30　網製書架及び物品棚

種類	規格等	用いる種類		
・鋼製書架 ・鋼製物品棚	JIS S 1039の規格による	・1種 ・4種	・2種 ・5種	・3種 ・6種

31　屋内掲示板

枠の材質　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・
板面の材質　※ 強化ｶﾞﾗｽ張り　・

32　洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り(芯材：集成材)　・
奥行き(mm)　・約450　・約600

33　防個落れ壁

・ 固定式

種類	材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※ 縦入り磨き板ｶﾞﾗｽ ・縦入り磨き板ｶﾞﾗｽ	※ 6.8 ・	※ 600 ・	ｱｰﾁ型枠付き	

・ 可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・遮音落下式(巻取り型)	・不燃布(不燃認定品)	・900 ・800 ・	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ ※ 固定式(躯体埋設) ・可動式(天井収納型)
・回転落下式	鋼板製又はｱﾙﾐ製	・900 ・800	表面仕上げ ※ 天然材張り ・

落下機構　地震や振動動及び手動開放機能(細埋型)

34　屋外掲示板

照明器具　※ 有り　・無し
地紋　※ 有り　・無し
設置所　・

35　収納棚類

台所用、和洋及びﾍﾞｰｶﾘｰﾎﾞｰﾄﾞのﾎﾙﾏﾘﾝﾎﾞﾄﾞの放散量　※ F☆☆☆☆
材質、形状、寸法　※ 図示

21章　給水工事

1　屋外用水給水　(21.2.1)(21.2.2)(21.2.1)(21.2.2)

材料

材種	管の種類	形式	ｴﾙﾎﾞｰﾍﾞﾝﾄﾞ	備考
・遠心力鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ管	※ 外圧管 (1種)	・B形管 ・	※ 図示　・ ・	
・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	・ﾀﾞｸﾄ(C) ・VS-70(G) ・VP ・VU		※ 図示　・ ・ ※ 図示　・ ※ 図示　・	

基礎の厚さ及び種類　・図示
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管の接手に用いる材料　※ 接着剤
個別の形状及び寸法　・図示
排水桝の種類　・図示
砂地業に用いる材料　・ｼﾙﾄ　・山砂　・川砂　・海砂
砂利地業に用いる材料　・再生ｸﾗｯｼｬｰ[G]　・切込砂利又は切込砕石
・ 現場打ちの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ材料
設計基準強度(N/mm2)　※ 8
ｽﾗﾝﾌﾟ(cm)　※ 15又は18
・ 現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号　※ SD295A
・ 排水桝が現場打ちの場合の見掛け金物
※ 個別仕様書21.2.2(6)(ｴ)
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工されたもの
埋上物制層に用いる材料　・
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

埋戻し用材料　・A種　※ B種　・C種　・D種

2　伸縮継ぎ手　(21.2.1)

名称	種類	適用部位	間隔	備考
伸縮継ぎ手 ﾍﾞﾛｰｽﾞ継ぎ手	・水封形 ・鋼製密閉形(ﾊﾟｯｷﾝ式) ・密閉形(ﾀｰﾎﾞﾊﾟｯｷﾝ式) ・中ふた付き密閉形(ﾀｰﾎﾞ・ﾊﾟｯｷﾝ式) ・	・ﾀｰﾝ2用 ・ﾀｰ6用 ・ﾀｰ20用 ・	・有り ・無し	指配以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による

3　グレーチング　(21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾌﾚｰﾑ・ﾋﾟｯﾁ	現場めっき(付着量)	上面形状
・鋳鉄	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(縦断用) ・斜ふた用 ・U字溝用	・歩行用 ・ ・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・細目 ・ ・普通目 ・細目	・ ・(　) ・ ・(　)	・凹凸形 ・ ・平形 ・
・ｽﾃﾝﾚｽ製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(縦断用) ・斜ふた用 ・U字溝用	・歩行用 ・ ・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	―	―	・凹凸形 ・ ・平形 ・

(品質・性能、試験方法は別表による)

○4　砕石、砂石及び盛土　(21.3.1)(21.3.2)(21.3.1)

砕石と、砕石、制限

種類	材質、寸法
○ 割石	○ 図示　・
・L形側溝	・図示　・
・U形側溝	・図示　・
・U形側溝ふた	・図示　・
○ 自由勾配側溝	○ 図示　・

地盤の材料　・砂利　○ 山砂　・川砂　・海砂
砂利地盤に用いる材料　○ 再生ｸﾗｯｼｬｰ[G]　・切込砂利又は切込砕石
砂利地盤の厚さ(mm)　※ 100　・図示
・ 現場打ちの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ材料
設計基準強度(N/mm2)　※ 18
ｽﾗﾝﾌﾟ(cm)　※ 15又は18
・ 現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号　※ SD295
埋上物制層に用いる材料　・
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

○5　埋戻し土　(21.2.1)

※ B種

令和7年度　伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	建築工事特記仕様書(8)		
縮　尺	―	図面番号	特記―08
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
静岡県道路公社			

22章　舗装工事

○1　路盤　　(22.3.2)(22.3.3)(表22.3.1)

路盤の厚さ　　○ 図示

路盤材料(標準仕様書表22.3.1による種類)

・ クラッシャラン

・ 粒度調整砕石

○ 再生クラッシャラン[G]

・ 再生粒度調整砕石[G]

・ クラッシャラン鉄鋼スラグ[G]

・ 粒度調整鉄鋼スラグ[G]

・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ[G]

○2　アスファルト舗装　　(22.4.2)～(22.4.6)(表22.4.4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ　　※ 図示

材料

アスファルト　・ 再生アスファルト[G]

標準仕様書表22.4.1による種類　　・ 60～80　　・ 80～100

・ ストレートアスファルト

骨材　・ 道路用砕石

・ アスファルトコンクリート再生骨材[G]

加熱アスファルト混合物等の種類　　○ 密粒度アスファルト混合物(13)

・ 細粒度アスファルト混合物(13)

・ 粗粒度アスファルト混合物(20F)

舗装の平たん性　　※ 通行の支障となる水溜まりを生じない程度

・

試験

アスファルト混合物等の抽出試験　　・ 行う　　・ 行わない

3　コンクリート舗装　　(22.5.2)～(22.5.4)(22.5.6)(表22.5.1)(表22.5.3)

コンクリート舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	部位	構造	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車道及び路肩車線	・ 図示	・ 図示
	歩行者用通路	・ 図示	※ 70

材料

コンクリート　　※ 普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による

・ 以下による

コンクリートの種類　　・

設計基準強度(N/mm2)　　・

所定のスランプ(cm)　　※ 8　　・

粗骨材の最大寸法(mm)　　・

早強ポルトランドセメント　　・ 使用しない

注入目地材料　　※ 低弾性タイプ　　・ 高弾性タイプ

目地

※ 標準仕様書表22.5.3及び図22.5.3による　　・ 図示

・ 以下による

間隔　　・

間隔　　・　　m以内毎

構造　　・ 図示

舗装の平たん性　　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

・

4　カラー舗装　　(22.6.2)(22.6.3)(22.6.4)

・ 加熱系ケー舗装

構成・厚さ　　・ 図示

加熱系混合物の結合材　　・ アスファルト混合物

・ 石油樹脂系混合物

顔料添加量(%)

顔加剤

着色骨材　：

自然石　：

・ 常温系ケー舗装

工法　　・ ニート工法

配合その他　：

・ 散布工法

配合その他　：

着色部の下部　　・ アスファルト舗装

・ コンクリート舗装

・

舗装の平たん性　　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

・

5　遮水性アスファルト舗装　　(22.7.2)(22.7.3)(22.7.6)

舗装の構成　　・ 図示　　・

材料

骨材　　・ 道路用砕石

・ アスファルトコンクリート再生骨材[G]

標準仕様書表22.4.1による種類　　・ 60～80　　・ 80～100

舗装の平坦性　　※ 著しい不陸がないもの

試験

粗粒度アスファルト混合物等の抽出試験　　・ 行う　　・ 行わない

6　ブロック系舗装　　(22.8.2)(22.8.3)

・ コンクリート平板舗装[G]

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	仕様
・ 普通平板(P) ・ 透水平板(P) ・ 保水性平板(P)	・ 300角 ・	※ 60	※ 砂 ・ モルタル	表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し

インターロッキング　　※ 砂　　・ 空隙モルタル

普通平板は[G](再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水平板は[G](透水性コンクリート)とする。

仕上り面の平たん性　　※ 歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内

・

・ インターロッキングブロック舗装[G]

種類	部位	形状・寸法	厚さ(mm)	圧縮強度(N/mm2)	仕様
・ 普通ブロック(P) ・ 透水性ブロック(P) ・ 保水性ブロック(P)	車道	・ 図示 ・	※ 80 ・	※ 5.0 ・	表面加工 ・ ・
・ 普通ブロック(P) ・ 透水性ブロック(P) ・ 保水性ブロック(P)	歩行者用通路	・ 図示 ・	※ 60 ・	※ 3.0 ・	表面加工 ・ ・

インターロッキング　　※ 砂　　・ 空隙モルタル

歩行者用通路に使用する普通ブロックは[G](再生材を用いた舗装用ブロック)、透水性ブロックは[G](透水性コンクリート)とする。

仕上り面の平たん性　　※ 歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内

・

・ 縁石類表

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	貼り方	基礎	基礎の厚さ(mm)
車 小舗石(拡こう岩) ・	・ 図示 ・ 図示	・ 80 ・	・ うろこ張り ・	・ コンクリート構造 ・ モルタル構造	全 70　・ 全 30　・

ラバーロッド　　※ 砂　　・ 空隙モルタル

仕上り面の平たん性　　※ 歩行に支障となる段差がないものとし、縁石間の段差は3mm以内

・ ジョイントシート

単位面積質量　　・ 60g/m2以上　　・

厚さ(mm)　　・ 0.5～1.0　　・

引張強さ　　・ 98N/5cm(10kgf/5cm)以上　　・

透水係数　　・ 1.5×10^{-3}cm/sec以上　　・

7　特別設計　　(22.9.2)

箇所

・ A部　(施工箇所)　・ 図示　・ 道路　　・　　)

・ B部　(施工箇所)　・ 図示　・ 建物周囲その他　・　　)

8　路面表示用塗料

路面表示用塗料は、JIS K 5665による

種類	施工	適用	色	幅(cm)	塗料厚さ(cm)
溶剤1号	刷毛	駐車場	・ 白	・ 150	・ 1.0
・ 溶剤2号	吹付	道路	・	・ 100	・
・ 溶剤3号	加熱	横断			

溶剤系合成樹脂系塗料の場合は標準厚さを塗料(L)

23章　植栽及び屋上緑化工事

1　植栽地の物理性　　(23.1.3)

土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験　　・ 行う　　・ 行わない

水溶性塩類(EC)の試験　　・ 行う　　・ 行わない

2　植栽基盤の整備　　(23.2.2)(23.2.4)

盛土の植栽基盤の整備　　・ 適用する　　・ 適用しない

種類	工法	客土土層の厚さ(cm)	有機質資材	土壌改良材
・ 盛土	※ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	樹高12m以上 ※ 100　・ 120　・ 150 樹高7m以上～12m未満 ※ 80　・ 100 樹高3m以上～7m未満 ※ 60　・ 80 樹高3m未満 ※ 50　・ 60	・ 表面与え部分 ・ 植栽部全 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない
※ 芝、地被類	※ A種 ・	40cm ・	・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない

植栽基盤の排水設備　　・ 設ける

※ 図示　　・

・ 設けない

3　埋込み用土　　(23.2.3)

※ 現場発生土の良質土　　・ 客土

4　土壌改良材　　(23.2.3)

種類及び用途量等

・ バーク堆肥[G]

施工箇所　　※ 植栽地面　　・ 図示

使用量(植栽基盤部面積1m2あたり)　　・ 50L　　・

・ 汚泥処理脱水材(下水汚泥コンポスト)

施工箇所　　※ 植栽地面　　・ 図示

使用量(植栽基盤部面積1m2あたり)　　・ 10L　　・

材料　　「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、種類検査の結果、害が認められないものとする

・

5　樹木　　(23.3.2)

樹種、寸法、単立数等　　※ 図示

6　支柱　　(23.3.2)(23.3.3)

支柱材　　※ 丸太(国産材)[G]　　・ 竹竹　　・

防腐処理方法　　※ 加圧式防腐処理丸太材　　・

形式　　・ 図示

7　幹巻き用材料　　(23.3.2)

材料　　※ 幹巻き用ロープ　　・ わら及びこも

8　芝　　(23.4.2)(23.4.3)

種類　　※ コウライシバ　　・ バミューダ　　・

芝張りの工法

平地　　※ 目地張り　　・ べた張り

法面　　・ 筋芝張り　　※ べた張り法面

9　芝付け仕様　　(23.4.3)

種子の種類	発芽率	種子の量(g/m2)	備考
※ 洋芝類(発芽後3年以内)	※ 発芽率85%以上		
・			

10　植栽帯　　(23.4.3)

種類	コテ径	単位面積当たりのコテ数	芝丈数
・	・	・	・
・	・	・	・

11　樹木、芝等の植栽後、各種樹木の植栽地盤　　(23.3.6)(23.3.6)(23.4.7)

新植樹木(芝張り、吹付けは種及び植栽帯を含む)の植栽後の期間

※ 引渡しの日から1年　　・ 無し

移植樹木の植栽地盤を行う期間

※ 引渡しの日から1年　　・ 無し

12　屋上緑化(別)

植栽基盤及び材料　　(23.6.2)～(23.6.4)

・ 屋上緑化システム

土地層の厚さ　　・ 図示　　・

排水層　　・ 軽量骨材

層の厚さ　　：

・ 成状成形品

植込み用土　　※ 軽良土　　・ 人工軽量土

樹木、芝及び地被類の供給元は図面、寸法、単立数等　　※ 図示

見切り材、植栽材、水抜き管、マイケグ材など　　※ 図示

(品質・性能、試験方法は別表による)

支柱　　・ 設置する

形式　　・ 図示

・ 設置しない

かん水設備　　・ 設置する

種類　　・ 図示　　・

・ 設置しない

工法　　「建築基準法施行令第39条第2項及び昭和62年建設省告示第1347号に基づく風圧力に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日　建設省告示第1458号)に基づく風圧力に対応した工法

・ 図示　　・

令和7年度　伊豆中央道・修善寺道路 ETC整備に伴う料金所改修工事			
図面の種類	建築工事特記仕様書(9)		
縮　　尺	―	図面番号	特記―09
設計会社名	西日本高速道路ファシリティーズ株式会社		
工事会社名			
静岡県道路公社			